

日本鐵鋼協會記事

	目	次
日本鐵鋼協會第 25 回講演大會並に第 26 回通常總會	325	I 出席者氏名 II 卓上演説記録
日本鐵鋼協會第 26 回通常總會記事	329	理事會記事
I 會長開會の辭及び議事録	329	評議員會記事
II 會務及び會計報告	333	服部博士記念資金委員會記事
III 表彰者氏名及び推薦理由書	343	新入會者氏名
日本鐵鋼協會春季大會晚餐會記事	346	會告及び會費領收報告
		卷頭

日本鐵鋼協會第 25 回講演大會並に第 26 回通常總會

第 1 日 4 月 2 日 (水) 講演會 午前 9 時開會

會場 東京市麴町區丸ノ内 3ノ4 帝國鐵道協會々館
出席申込數 1,121 名 實際出席者 691 名

本日出席者へ配布の印刷物

1. 昭和 15 年度會務會計報告書
2. 出席者名簿
3. 服部賞, 香村賞, 俵賞, 渡邊賞各受領者推薦理由書
4. 第 25 回講演大會講演大要

定刻の振鈴合圖に第 1 會場で渡邊會長登壇一場の挨拶ありて開會を宣し直に第 1, 第 2 會場に分れ (第 2 會場では吉川副會長) 司會者席に就き次記の講演プログラムを續行す。途中第 4 番及び第 31 番の講演を終るや總員第 1 會場に集合別項記事の如く第 26 回通常總會の開會を見た。(記事別項) 總會終了後食堂に入り晝食休憩、午後 1 時振鈴に依り再開す。本日の講演中第 1 會場第 1 番の講演者蒞 益太郎君事故の爲め缺席の餘儀なきに至りし外全てプログラムは順調に進行した。午後 5 時 45 分閉會。本日司會の勞を執られし方々次の如し。

	第 1 會場	第 2 會場
自 9-10 至 10-05	渡邊 三郎君	吉川 晴十君
自 10-20 至 11-15	河村 隲君	依 國一君
自 1-0 至 2-25	水谷 叔彦君	井上 克巳君
自 2-40 至 4-05	齋藤 大吉君	松下 長久君
自 4-20 至 5-45	井村 竹市君	川上 義弘君

晚餐會 午後 6 時 30 分開會 出席者 173 名

會場 帝國鐵道協會々館食堂

先づ主卓には來賓, 受賞者及び主なる本會役員等着席す。席定まるや一同歡談裡に晚餐を共にデザートに入るや渡邊會長立つて一場の挨拶をなし引續き例に依り數

氏の卓上演説あり早くも時 9 時を過ぐ。會長立つて一同の健康を祝し閉會を告ぐ。一同拍手大満足裡に散會した。

第 2 日 4 月 3 日 (木祭) 講演會 午前 9 時開會

本日の出席者 約 620 名
例に依り

	第 1 會場	第 2 會場
自 9-00 至 10-25	鹽澤 正一君	山田良之助君
自 10-40 至 0-5	村上武次郎君	澤村 宏君
自 1-00 至 2-25	藤井 寛君	石田 四郎君
自 2-40 至 4-05	田中 清治君	二階堂行健君
自 4-20 至 5-15	渡邊 三郎君	吉川 晴十君

の司會の裡に今季大會の講演プログラム全部を最も順調に演了し盡した。會長登壇、司會者並に講演者諸君へ厚く謝辭を述べられ會員一同の熱誠を謝し尙時局柄翌日の見學に就き乗物晝食等に遺憾の點を恕せられたき旨敘するところあり最も盛況裡に散會した。

講演プログラム

日本鐵鋼協會第 25 回講演大會及第 26 回通常總會プログラム

第 1 日 4 月 2 日 (水) 講演會 午前 9 時開會

會場 東京市麴町區丸ノ内 3ノ4 帝國鐵道協會々館

開會之辭 第 1 會場

社團法人日本鐵鋼協會々長 工學博士 渡邊 三郎君

場所 帝國鐵道協會々館二階

開會之辭終了後講演會場を第 1 第 2 の 2 部に分つ

第 1 會場 帝國鐵道協會々館二階

第 2 會場 帝國鐵道協會々館三階

議 演 午前の部

第 1 會場 (二階)

(1) 直接製鋼の一方式

日本高周波重工業株式會社城津工場 蒞 益太郎君

(2) 直接製鋼法に依る鋼材の性質に関する研究
第I報 (幻燈要)

大阪帝國大學教授 工學博士 松川 達夫君
講演者 助教授 工學士 鈴木 芳郎君

10 分 間 休 憩

(3) 回轉爐反射爐等による直接製鐵法

理化學研究所々長 工學博士 大河内正敏君

(4) 硫酸滓に関する研究 第2報 (幻燈要)

哈爾濱工業大學教授 工學士 森棟 隆弘君

第2會場 (3階)

(28) 大孤山鐵鑛石の選鑛に関する研究 第II報

昭和製鋼所研究所 工學士 後藤 有一君

(29) 熔鑛爐にて低炭素銑製造法の研究

日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所
技師 工學士 八木貞之助君

10 分 間 休 憩

(30) 熔鑛爐に於けるフェロマンガンの吹製に就て

日本製鐵株式會社八幡製鐵所製銑部
技師 松尾 豊郎君

(31) 粒狀銑鐵の粒鐵化に関する研究

九州帝國大學教授 工學博士 井上 克巳君
工學士 森永 典男君

日本鐵鋼協會第26回通常總會

日時 4月2日(水)午前11時20分開會

會場 東京市麴町區丸ノ内3ノ4 帝國鐵道協會々館

開會之辭

社團法人日本鐵鋼協會々長 工學博士 渡邊 三郎君

I 議 事

- イ 昭和15年度會務報告
- ロ 昭和15年度收支決算報告
- ハ 昭和16年度收支豫算報告
- ニ 任期滿了評議員改選並に新增員評議員選舉 (投票開票)

II 表彰式

- イ 服部賞贈呈式
- ロ 香村賞贈呈式
- ハ 俵賞贈呈式
- ニ 渡邊賞贈呈式

總會閉會之辭

講 演 午後の部

第1會場 (二階)

(5) 學振第19小委第7號光高溫計による熔鋼溫度の測定法

日本學術振興會第19小委員會委員長
東京帝國大學名譽教授 工學博士 俵 國一君

(6) 光高溫計に依る熔鋼溫度測定の精度

商工省中央度量衡檢定所 理學士 天野 清君

(7) 新熱電對に依る熔鋼溫度の測定 第III報

吳海軍工廠製鋼部 工學博士 佐々川 清君
大室 唯市君

10 分 間 休 憩

(8) 熔鋼の輻射率に関する研究 (第II報)

住友金屬工業會社製鋼所 理學士 菅野 猛君

(9) 海綿鐵の製造と其の溶解試験に就て

講演者 大同製鋼株式會社 工學博士 錦織 清治君
淺野 輝君

(10) 平爐を改造利用した直接製鋼法に就て

大阪帝國大學教授 工學博士 松川 達夫君

10 分 間 休 憩

(11) 回轉爐製鐵法に於ける二、三の考察

日本特殊鋼管株式會社 工學士 中島 省一君

(12) ニッケル・クロム鋼の直接製鋼

理化學研究所々長 工學博士 大河内正敏君

(13) 砂鐵より酸化ヴァナヂウム及び普通鋼の精鍊

理化學研究所々長 工學博士 大河内正敏君

第2會場 (三階)

(32) 製鋼反應の物理化學的研究 第II報

$[FeO] + Co \rightleftharpoons [Fe] + Co_2$
 $[FeO] + [C] \rightleftharpoons [Fe] + Co$
 $[C] + Co_2 \rightleftharpoons 2Co$ の測定(附)鋼中の炭素の
迅速精密測定法

北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
講演者 囑託 理學士 田尻 惟一君

(33) 熔鋼の脱酸に関する二、三の研究

日本製鋼所室蘭製作所 工學博士 小林佐三郎君

(34) 製鋼反應の物理化學的研究 第III報

$[Si] + 2H_2O \rightleftharpoons (SiO_2)_{sat} + 2H_2$ の測定

講演者 北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
囑託 理學士 田尻 惟一君

10 分 間 休 憩

(35) カーバイト鋼滓の調整に関する作業研究

日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部
工學士 池田 正君

(36) 電氣爐に於ける脱磷に就ての一考察

日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所
工學士 雀部 高雄君

(37) 微細なる非金屬介在物を除去する電氣爐操業法

講演者 廣海軍工廠造機部 工學士 藤田 忠男君
山口 三郎君
山下 數夫君

10 分 間 休 憩

(38) 凝固中の押湯に関する二、三の實驗

神戸製鋼所 工學士 梅澤光三郎君

(39) 電氣爐操業時に於ける非金屬介在物の舉動に就て

横須賀海軍工廠造機部
造機大佐 工學博士 石川 薫君
講演者 海軍技師 理學士 山本 利道君

(40) (學振第19小委員會) 鹽基性電氣爐熔製作業記錄の
物理化學的考察

北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君

第1日講演終了

晚 餐 會 午後6時15分開會

會場 東京市麴町區丸ノ内3ノ4 帝國鐵道協會會食

會費 5圓也

第2日 4月3日(木、祭)講演會(會場前日同斷)

講 演 午前の部

第1會場 (二階)

- (14) 固定式 60 吨鹽基性平爐に於ける合併法に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部
技師 三宅 貞信君
- (15) 傾注式 100 吨平爐に於ける鑄石法に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部
技師 工學士 蜂谷 茂雄君
- (16) 迅速工場分析とその偏差に就て (幻燈要)
日産自動車株式會社研究部 工學士 吉城 肇蔚君

10 分間休憩

- (17) 鑄鐵の磨耗研究 II (幻燈要)
理化學研究所 工學士 海江田弘也君
- (18) 鑄鐵中含有されたガスが黒鉛の析出及び成長に及ぼす影響に就て 理化學研究所 理學士 眞殿 統君
- (19) 電子廻折に依る金屬腐蝕の研究
 $K, Na, Li, Co, Be, Mg, Zn, Al$ の水及び鹽酸に依る腐蝕 (幻燈要)
理化學研究所 理學士 山口 成人君

書 食

- (20) 鑄鐵の共晶黒鉛組織の發生に就て
東京帝國大學助教授 工學士 田中 清治君
- (21) 鐵合金製造に關する基礎的研究 第 1 報
京都帝國大學教授 工學博士 西村 秀雄君
講演者 京大化學研究所 渡邊 暁君
- (22) 鑄鐵の流電氣腐蝕現象に及ぼす水流並に應力の影響
(幻燈要) 新潟鐵工所 工學士 齋藤 彌平君

10 分間休憩

- (23) 鋼の結晶粒度と介在物 (I) (幻燈要)
日本特殊鋼株式會社 工學士 出口喜勇彌君
- (24) 鹽素法に依る鋼中の非金屬介在物の定量法 (續法)
日本特殊鋼株式會社 理學士 森脇 和男君
- (25) 沃素法に依る海綿鐵中の酸化鐵の分離定量法
住友金屬工業株式會社製鋼所 山田 孝一君

10 分間休憩

- (26) 特殊鋼の燒鈍に關する研究
日本製鋼所室蘭製作所 理學士 下田 秀夫君
- (27) 高溫高壓化學工業用 $Cr \cdot Mo$ 鋼管の溶接に關する研究
住友金屬工業株式會社製鋼部
工學博士 絹川武良司君
講演者 大森 仁平君

第 2 會場 (三階)

- (41) 四重壓延機の Back up Roll の表面應力と硬度に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所工務部
技師 工學士 淺村 峻三君
- (42) 幅廣冷間帶鋼壓延機に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部
技師 工學士 西郷 吉郎君
- (43) 鐵・Cr 系合金に於ける σ 相に就て
東北帝國大學教授金屬材料研究所々長
理學博士 村上武次郎君
講演者 同助教授同所員 柴田 仁作君

10 分間休憩

- (44) $1,137^{\circ}C$ に於ける鐵の化學變態 (假稱 A_N 點) に

就て (幻燈要)

- 海軍技術研究所 工學士 早矢仕 功君
- (45) 高溫高壓水素ガスの鋼に對する作用並に各種元素の影響に就て 第 1 報
住友金屬工業株式會社鋼管製造所 大倉 幸雄君
- (46) 燒の這入る這入らないと状態圖との關係に就て
講演者 東北帝國大學教授 理學博士 岩瀬 慶三君
金屬材料研究所員 理學士 竹内 榮君

書 食

- (47) 高速度工具に關する研究 (第 5 報)
吳海軍工廠製鋼實驗部 工學士 堀田 秀次君
- (48) 軸受球用鋼の試作研究
日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所
技師 森寺 一雄君
- (49) 構造用鋼としての $Cr \cdot Mo$ 鋼に關する二、三の實驗
講演者 日立製作所日立工場 工學士 泉 八郎君
工學士 守永 孫江君

10 分間休憩

- (50) コークス副生物としてのベンゾール類回収に關する一考察
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製銑部
技師 工學士 吉田 尙君
- (51) 加工法異なる車軸の機械的諸性質に就て
日本製鐵株式會社監理部理事 工學士 足立 逸次君
- (52) 等溫變態せる $Ni \cdot Cr$ 鋼の機械的性質に就て (幻燈要)
日本製鋼所室蘭製作所 理學士 阿部 三郎君

10 分間休憩

- (53) $Ni \cdot Cr$ 鋼の白點と水素吸収との關係
旅順工科大学教授 工學博士 福島 政治君
- (54) $Ni \cdot Cr$ を含むルッペ及び之を使用せる $Ni \cdot Cr$ 鋼の性狀 東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君
同工學部綜合試驗所 工學士 三橋鐵太郎君
講演者 日本火工株式會社 川田 諒雄君

開 會 の 辭

會長 渡邊 三郎君

講演全部終了

第 3 日 4 月 4 日 (金) 工場見學

今朝は本年初めての暖き春日和で花は未だ漸く二分通りの綻びなりしも見學には好適の日和であつた。本年は見學希望者の非常に多くなつたのに反し時局柄見學工場の許可が中々降りないのと、乗物の交渉に見透しがつかず意外の手間を取つた爲大會の通知が遅れ折角遠方からの出席者に準備上手落の多かつたことは誠に申譯がなかつた。然し兎に角互助のお蔭で先づ順調に完了せしことは感謝の外ない次第である。

見學場所

(イ) A 班 (砂町方面)

見學人員 (實際/申込) 166/271

(1) 汽車製造株式會社 (所在 城東區南砂町 4ノ 6)

午前 9.00~10.30

同所見學後徒歩約8丁

(2) 株式會社宮製鋼所 (所在 城東區南砂町6ノ

410) 午前 11.00~12.00

徒歩約6丁 東京シャリング株式會社に至り

晝食 (同所構内にて, 辨當は 宮製鋼所の 御好意を受く)

(3) 東京シャリング株式會社 (所在 城東區 南砂町
9ノ2470) 午後 1.00~2.00

(4) 解散

(ロ) B班 (横濱鶴見方面)

見學人員 (實際/申込) 190/289

(1) 東洋鋼材株式會社 (所在 川崎市渡田)

午前 9.00~10.30

同社見學後 臨港電車若尾驛より乗車武藏白石驛降車

(2) 日本鑄造株式會社 (所在 川崎市白石町3ノ1)

午前 11.00~12.00

同社見學終了後構内にて

晝食(辨當は同社の御好意を受く) 午後 1.00 武藏白石驛發臨港電車にて辨天橋驛降車

(3) 日本鋼管株式會社 鶴見製鐵所 (所在 横濱市鶴見區末廣町2ノ1) 午後 1.00~2.00

同所見學終了後 次の4部に分る

(4) 甲. 日産自動車株式會社 (46/68名) (所在

横濱市神奈川區寶町2丁目) 午後 2.30~3.30

分離後 淺野驛より本山驛まで臨港電車本山驛より徒歩約1丁にて京濱電車總持寺驛より乗車新子安にて下車徒歩約4丁

乙 東京自動車工業株式會社川崎製造所 (69/104

名) (所在 川崎市大師町) 午後 2.30~3.30

分離後 淺野驛より渡田驛まで臨港電車, 同驛にて臨港バスに乗替, 徒歩なし

丙. 日本石油株式會社鶴見製油所 (33/49名) (所在横濱市鶴見區安善町2) 午後 2.30~3.30

分離後 淺野驛より臨港電車にて安全通驛下車

丁. 三菱重工業株式會社横濱船渠 (42/68名) (所在横濱市中區綠町) 午後 2.30~3.30

分離後 淺野驛より鶴見驛まで臨港電車, 同所より省線に乗替へ櫻木町驛下車徒歩

(5) 解散

(ハ) C班 (川口方面)

見學人員 (實際/申込) 141/186

(1) 日本車輛製造株式會社 蕨工場 (所在 川口市大字芝 1780) 午前 9.00~10.20

同所見學後蕨驛より省線にて川口驛にて降車, 驛前よりバス

(2) 株式會社池貝鑄造所 (所在 川口市元郷町3丁目) 午前 10.50~午後 0.20

晝食 (同所構内にて)

晝食後 下記の通り 甲, 乙, 2部に分る

(3) 甲. 商工省燃料研究所 (45/53) (所在 川口驛前) 午後 1.00~2.30

池貝前よりバス

乙. 日本皮革株式會社 (23/133) (所在 足立區千住綠町 16) 午後 1.30~2.30

池貝前よりバスにて千住大橋にて下車, 徒歩

(4) 三河島汚水處分場 (所在 荒川區三河島8丁目) 午後 2.30~3.30

(5) 解散

(ニ) D班 (向島市川方面)

見學人員 (實際/申込) 114/182

(1) 株式會社那須アルミニウム製作所 (所在 葛飾區平井町) 午前 9.00~10.30

同所見學徒歩約5丁

(2) 株式會社太田鐵工所 (所在 葛飾區上小松町)

午前 11.00~11.30

晝食 (同所構内にて)

午後0時省線新小岩驛發省線本八幡驛下車, 徒歩約5丁

(3) 株式會社本八幡製鋼所 (所在 市川市八幡 150)

午後 1.00~2.00

本社の御厚意に依りバスにて

(4) 株式會社千葉製鋼所(船橋) 午後 2.30~3.30

へ案内されニウカレドニア鑛石より直接製鋼の見學を許さる

同バスにて船橋驛, 開散

見學者總計 (實際/申込) 611/928

日本鐵鋼協會第26回通常總會記事

日時 昭和16年4月2日(水)午前11時20分開會午後0時25分閉會

會場 東京市麴町區丸ノ内3丁目4番地 帝國鐵道協會々館

I. 會長開會之辭並に議事録

社團法人日本鐵鋼協會々長

工學博士 渡邊三郎君

茲に聖戰5年、紀元2601年を迎へまして、日本鐵鋼協會が多數の會員各位の御臨席を得て第26回總會を開くことの光榮を得ましたことは洵に御同慶のこと、大いに喜びに堪へぬ次第でございます。先づ開會に先だちまして、本事變に於ける幾多海に陸に將た空に勇戦されて而も不幸護國の鬼となられました戦歿將士の英靈に對し、深甚の弔意を表すると共に、出征勇士の武運長久を祈りまして15秒の黙禱を致しますから、御賛同を得て御起立願ひたいと思ひます。

(一同起立黙禱)

I. 會況報告

1. 本協會の發展 次に引續きまして會務の報告を致します。先づ當會の其の後の發展事情を聊か申上げて置きたいと思ひます。御蔭様で會員も非常な數に上りまして、本年2月の末日には4,417名となりまして、昨年と同様に較べまして693名の増加になりましたことは、恰度時機宜しきを得ましたか、日滿の製鋼事業の殷賑と、前會長、役員各位の御努力、會員諸氏の御援助に依りまして非常に増すことを得ました。併し私は先年齋藤前會長から御引繼を致しまして、是非近く5,000人に致したいといふことにはまだ到達を致さないことを洵に遺憾と致して居るのであります。どうぞ、昨年10月に神戸で申上げたやうに、この講演大要の此の1枚の紙を無駄になさらぬやうに、所謂1人が1人を生む、斯う云ふことで、近く5,000人乃至7,000人の會員になることに御盡力を願へれば大變合せと思ひます。

2. 名譽會員推薦 次に、本年2月の評議員會に於きまして、日本製鐵株式會社の社長平生飢三郎氏と、株式會社日本製鋼所顧問前會長水谷叔彦氏の御兩所を名譽會員に御推薦を致したことを茲に御報告を致します。

3. 研究部會 次は、當協會と致しまして、早くから、鐵鋼の研究と云ふことが最も必要である。隨て今時局に對しては勿論製鐵製鋼事業に大切な役目をなして居る譯であります。それに付きまして先年日本鋼管株式會社から多額の資金を戴きまして、之を基として各種の研究を進めて居ります。昭和13年に燃料經濟研究會が開始され日鐵の海野博士を委員長と致しまして、熔鑛爐の熱勘定、或は溫度の測定法、さう云ふ熔鑛爐に關係することや、平爐の問題、斯う云ふやうなことを數回に亙りまして研究を重ねて、種々講演を致したり報告を致して居る次第であります。次は、丁度昨年今日前會長齋藤博士から御話がありました電氣爐研究部會、是は今日となりましては非常に大切なことになりまして、日本の國防上最も大切なる特殊鋼の製造に本邦としては主として電氣爐を使って居りますが、此の電氣爐の形であるとか、又作業方法、原料其の他の調査等を致して居ります。是は大同製鋼の川崎舎博士に委員長を御願ひ致しまして、而も之を4つの小委員會に分けて、昨年同様の如きは、事柄が事柄でございますもので、30回の小委員會を催し、又昨日は早朝より各委員が研究部會を催したやうな次第であります。第3には飛行機と共に最も大切なる自動車の製作に重要性を持ちます鋼材の研究部會、是は當協會の副會長であられる吉川博士を委員長と致しまして、昨年から3回に亙り、自動車を造られる權威ある技術者と鋼を造られる權威ある技術者の渾然とした懇談研究を遂げまして、非常な成果を擧げて居ります。その他、鋼鑄物研究會、是は日本鑄物協會の會長の石川博士に御盡力を願ひまして、協同で研究を進めて居ります。又此の鋼を造るのに必要なる耐火材、之に付きましては、大日本窯業協會の黒田氏に御厄介を掛けまして、協同懇談會研究會を進めて居るやうな次第であります。又更に、此の時局になりまして最も大切なる平爐の原料研究部會を昨朝から午後に亙りまして皆さん御集まりで委員の人が熱心に研究を下すつたやうな次第であります。尙是からは續々斯う云ふ研究會が出来まして、其の研究事項も適切であり、其の報告も中々立派なもので得難い資料でございますから、會員各位は勿論のこと、各省官廳に於かれても之を御利用遊ばされたならば、此の鐵鋼技術及び生産に寄與する所が非常に多いと確信する次第であります。

4. 野田文庫 次は、前會長野田博士を記念致しまして出

來た野田文庫でございます。之も委員の方の御盡力で色々有益なる書物を集めて、只今では和洋合せて400冊を超え、而も外國雜誌が26種にも及んで居るやうな次第でございます。今日のやうに外國雜誌や書物が得難い場合には之を御利用なさるといふことは大變に會員各位に御便利を與へることゝ深く信ずるのであります。

5. 講演會 其他、御承知のやうに、春秋2季の大會の外、當協會と致しますと、毎月講演會を現場の仕事、或は學術に付て、又は映畫を加へるといふやうなことに致しまして始終開きますが、之も御蔭様と最近は立錐の餘地のない程の盛會を致して居るやうな次第であります。又秋の大會は、昨年神戸でありましたが、是までにない1,000人の出席者を見るといふやうな盛會を極め、本日も、承りますと其のレコードを破つて1,200人に達するやうな有様だといふ御話でございます。是は洵に今日の時局に對して其の反映とは存じますが、洵に結構なことゝ深く考へる次第であります。

6. 鐵鋼要覽 其他、こちらで今やつて居られる鐵鋼要覽の編纂でございますが、是も、他の要覽と違ひまして、製鐵業の方面は多種多様各方面のことに亘て居りますので中々時が掛り、其の衝に當て居られる方も非常に御盡力されて居りますが、中々豫定の通り行かないと云ふことは洵に遺憾であります。此の時局の影響を受けまして少し遅れましたが、本年中には是非皆さんの御手許に差上げるやうに努力をされて居るやうな次第であります。

7. 支部 それから、當協會の關西支部は、前會長齋藤博士の非常なる御盡力で、是まで居られた荒木宏氏が支部長として御盡力下さいましたが先般満支の方に用が出来ましたので御辭職と共に、當協會の評議員川上博士に支部長を御願ひ致しまして、講演會に見學に非常な盛會になられて居ると云ふことは非常に結構なる事と存じます。尙滿洲でありますとか、九州でありますとか、さう云ふ方面にも各支部が出来て鐵鋼協會の盛んになると云ふことを祈念致して居る譯で何分此の地方の方の御盡力を願ひたいと思つて居ります。

II. 内外製鐵業の趨勢

1. 内地 大體會の様子は左様でございますが、例に依りまして日本の鐵鋼の趨勢及び海外の様子を一言申上げるやうな事になつて居りますが、内地のことは、昨年10月16日のアメリカの屑鐵輸出禁止から非常な困難な場合を日本の鐵鋼界に及ぼして居るのであります。御承知の通り、

此の事變に於て、鐵鋼に關係する吾々と致しましては、總ての國防の材料、又聖戰の材料、又生産擴充に必要な色々な資材の基となるものは鐵鋼である譯であります。之の生産を高めなければならぬ。然るに屑鐵の輸入も止つたと云ふことでありますから、二重の努力を拂はなければならぬ重大なる困難な時期に遭遇して居る事は御承知の通りであります。日本の鐵に關する資源がまことに不足して居る關係から致しまして、外國の鋼の生産額に比べて日本の銑鐵の生産の割合が非常に少いのであります。仍て、是までは對岸のアメリカに非常なる屑鐵の生産地が出来て居りますから、甚だイージーウェイを歩いたやうなものであります。屑鐵に依て平爐も、殊に特殊鋼の生産などは之に依て生産をやつて居たのであります。然るに輸出禁止となりましたから、非常な厄介なことで、一時に其の對策處置を考へる必要に迫られましたのであります。是が或は不幸中の幸で、日本の鐵鋼業に關係する人が眞劍に自分の腕を揮ひ、又將來の日本の製鐵事業を確立する大いなる刺戟となつたと確信致します。時節柄數字は申上げられませぬが、大正15年に製鐵業獎勵法が出来まして、一貫作業を獎勵すると云ふことになつたのであります。中々困難があつて、先程大河内先生の御話のやうに、大正の初めに研究されたロータリーキルンが、其の儘しまつて置いて、今日世の中に色々騒がれて居る、斯様な始末で、一貫作業も中々容易でなかつたのであります。最近になつて、日鐵に於かれても、昨年廣畑の大熔鑪を新しく火入れをし、又室蘭の輪西製鐵所に於かれまして第3號の熔鑪が間もなく火を入れると云ふことに承つて居ります。其他鋼管會社に於きまして第4號の大熔鑪が本年度に建設され、又中山製鋼と云ひ、尼ヶ崎製鋼と云ひ、小倉製鋼と云ひ、新しく熔鑪を増設される事に成て居ることありますから必ずや銑鐵も充分に出て、アメリカのスクラップが來なくてもびくともしないと云ふことになれるのではないかと考へます。

又銑鐵の原料の鑛石に於ては、茂山の開發が進みまして、茂山から古茂山まで完全なる鐵道が敷けて、その鑛石を清津の工場に送り、又内地までも送られ、本式の大陸の鑛石を持つて來るルートが出来るやうになりましたことは、滿洲の石炭の増産が充分に出来ることゝ相俟つて初めて日本の製鐵事業の基礎が出来るとはなからうかと深く喜んで居る次第でございます。其の間、先年ドイツから輸入されましたルッペの研究も、三菱の清津の工場及び昭和製

鋼の鞍山の工場に於て、本家のドイツよりも盛んな、もつと立派な設備をなされ、どしどし此の頃は生産をされ、屑鐵に代へるよりも寧ろ屑鐵の方が其の代用になるやうなことに、新しい平爐或は電氣爐の材料が此の日本に於て發達すると云ふやうなことになるのではなからうかと思ふのであります。尙其の方法を利用なさつて、日本特殊鋼管或は川崎重工業、或は理研鋼材のロータリー・キルン、さう云ふ風なキルジを用ひまして粒鐵を造ると云ふことが非常な發達を遂げて參つたことは此の日本の製鐵事業の一つの特徴であるかのやうに考へます。

次に特殊鋼のことでございますが、是は陸軍、海軍兩軍の國防に於ては是まで充分に自給が出来て居つたのであります。事變前までは、民需と申しますか、一般の特殊鋼を使ふ方にありましては皆イギリス又はドイツの製鋼會社に依存をして居たと云ても過言ではないと存じます。其の當時は、商賣人も殆ど日本の製品などは顧みずして、皆ベラーであるとか或はジョナスであるとか、さう云ふ英獨の製鋼會社の製品を日本で喜んで居たものであります。然るに此の事變から、外國のものを入れたくても入らない。之に依て、商工省でも特に特殊鋼課をお設けになつて、特殊鋼協議會と云ふものを統制下に置いて、それに従つてメンバーは、60 數社を超えて居るやうな譯であります。之に設備を相當致しまして、其の設備も相當出来て居ると存するのであります。然し特殊鋼は一般の製鋼のやうにたゞ道具立てをすれば直に製品が出来るといふ譯にも參りませぬので永年の經驗と、工場全體が所謂刀を打つと云ふやうな精神にならなければ特殊鋼のやうなものはユニフォームのものは出来ないと云ふのであります。之に就きましては、當協會でも、先程申上げました電氣爐研究部會、是等が特殊鋼の技術を向上させるには非常な力があるものではなからうかと思ひます。それと同時に基礎の方面に於ては、學術振興會の第 19 小委員會で、依博士を委員長とされて、數年に互つて、而も日本の權威を御集めになつて、仔細に御研究を掘下げて居られますから、是が特殊鋼の製造技術、品質の向上には非常に役立つことと存する次第であります。

さう云ふやうな有様で、日本の製鋼事業は歐米依存で進んで参りましたが、どうしても是からは歐米依存の所謂練習時代を越えて日本の國情に則したる方法に依り本當の出發點になるのではないかと思ふのであります。是等を考へ

まする時一層當協會の會員各位の御努力を仰ぐ譯合と存じます。

2. 外國 繙て外國の例を——此の表は甚だ簡略でございます。いませうけれども——紹介致しますが、

イ. 銑鐵 第 1 表で御覽の通り 1940 年の銑鐵の生産高を見ますと、合金鐵も加へまして、アメリカが約 4,300 萬噸、昨年に較べますと 1,000 萬噸以上の増加で、30%

第 1 表 1940 年海外諸國の銑鐵 (合金鐵を含む)

國名	生産高 (概算)			1938 年に比し	
	1940 年 生産高 (萬噸)	1939 年に比し 數量 (萬噸)	百分比 (%)	數量 (萬噸)	百分比 (%)
米 國	4,309.1	1,082(増)	33.5(増)	2,362(増)	120(増)
獨 逸	2,095.6	109(減)	5(減)	244(増)	13(増)
英 國	843.7	11(増)	1.3(増)	157(増)	23(増)
ソ 聯	1,551.3	26(増)	1.7(増)	52(増)	3.5(増)
伊 太 利	88.4	13(減)	12(減)	3(減)	3.3(減)
世界合計	10,566.4				

第 2 表 1940 年海外諸國の製鋼高 (鋼鑄物を含む)

國名	生産高 (概算)			1938 年に比し	
	1940 年 生産高 (萬噸)	1939 年に比し 數量 (萬噸)	百分比 (%)	數量 (萬噸)	百分比 (%)
米 國	5,919.3	1,130(増)	40(増)	3,039(増)	102(増)
獨 逸	2,553.7	127(減)	5.5(減)	229(増)	10(増)
英 國	1,360.0	10(減)	0.7(減)	305(増)	29(増)
ソ 聯	1,977.7	99(増)	5.2(増)	133(増)	7.2(増)
伊 太 利	254.0	18(減)	6.6(減)	22(増)	10(増)
世界合計	14,314.8				

第 3 表 1940 年世界の製鋼能力と生産高 (概算)

國名	製鋼能力		製鋼高		各國能力 に對する 生産高百分比
	數量 (萬噸)	世界合計 に對し	數量 (萬噸)	世界合計 に對し	
世界	17,200 (1940年初頭)	100%	14,300	100%	83%
米 國	7,400	43%	5,900	41.2%	79.6%
英 國	1,430	8.3%	1,360	9.5%	95%
ソ 聯	2,000	11.6%	1,970	13.7%	98.5%
獨 逸	*4,350	25.2%	合計 3,720	26.0%	79.7%
伊 太 利	320	1.8%			

* 占領地 7 ヶ國の分を含む

以上増加して居る譯であります。1 昨年に比べますと 120% 増して居るやうな状態で、アメリカの製銑の力と云ふものは非常に發揮されて驚くべきものであることは之を見ても分る譯であります。

ドイツはアメリカに次いで 2,090 萬噸と云ふ大變な數量をあの小さい國で出して居りますが、戰爭の關係がありまして、昨年に比べては 5% 減り、1 昨年よりは 13% 程増

員鶴瀨新五君と石原善雄君に御願ひ致したいと思ひます。

2 豫算及び決算 就きましては、此の會の豫算、決算の表は御手許にございますから、大體それで御諒解を願て、監事の御報告を願ひたいと思ひますが、宜しうございますか(「異議なし」と呼ぶ者あり)御異議がなければ引續き監事の會計御報告を願ひたいと思ひます。

○理事(會計擔任)鹽澤正一君 本日堤監事が御用事があつて出られませぬので、御手紙を戴いて居ります。一寸それを朗讀致します。

理事提出に依る第 26 回通常總會昭和 15 年度會務報告、昭和 15 年度會計報告を監査したる處適法正確に付き右及報告候也。

昭和 16 年 4 月 2 日

社團法人日本鐵鋼協會監事 堤正義

○議長(會長渡邊三郎君) 只今の監事の御報告の通りでございます。如何でございますか、御承認を得たものと承知して宜しうございますか。(拍手)それでは御承認を得たことに承知致しまして、洵に有難うございました。

IV 表 彰 式

引續き、服部賞、香村賞、俵賞、渡邊賞、此の 4 賞牌並に賞金を名譽ある方々に差上げたいと云ふ其の式に移ります。

(表彰式)

4. 評議員改選及び増員投票結果

○議長(會長渡邊三郎君) 是で賞牌授與式を閉ぢまして、投票の結果を御報告申上げます。

○鶴瀨新五君 (評議員) 今回半数改選になります評議員並に今度増員になります評議員の投票の結果を御報告申上げます。正會員數は現在 2,328 名ありまして、投票の數が 616 票、(委任状を送附した方が 615 通)、之等全部が本會の評議員會に於て推薦致しましたる方に原案通りに賛成になつて居ります。其の氏名はこゝでは省略することに致します。御承認を願ひます。(拍手)

○議長(會長渡邊三郎君) 只今投票になりましたやうに全部御當選下さつたのですが、どうぞ恐れ入りますが、評議員各位には甚だ御忙がしい所を御迷惑であります、御盡力を御願ひ致したいと思ひます。

それでは是で閉會致します。

午後 0 時 20 分閉會

II. 會 務 及 び 會 計 報 告

1. 昭和 15 年度會務報告 (自昭和 15 年 3 月 1 日 至昭和 16 年 2 月 23 日)

1. 集 會

通常總會	臨時總會	理事會	評議員會	編輯委員會	服部博士 記念資金 委員會	野田文庫 委員會	日鋼資金 委員會	大會(東京 神戸)	臨時 講演會
1	1	11	3	11	1	0	0	2	8
研 究 會									
電 氣 製 鋼				燃料經濟 熔鑄爐熱 勘定	鋼 鑄 物 (鑄物協會と聯合)	自動車用鐵鋼材 (機械學會と聯合)	耐火材料 (窯業協會と 聯合座談會)	熔鋼溫度 測定講習會 (學振と聯合)	
委員總會	幹事會	第 1 小委員會	第 2 小委員會	第 3 小委員會	第 4 小委員會	委員總會	幹事會	委員會	準 備
1	2	15	8	4	3	1	1	1	1

2. 會 員 異 動

	名譽會員	維持會員		贊助會員	正會員	准會員	計
		員 數	口 數				
入 會 者	1	13	16	3	183	569	769
轉 格 者	1	1	1		+ 16	- 16	
退 會 者		7	10		- 23	22	52
死 亡 者	2				15	7	24
昭和 16 年 2 月末日現在	14	56	152	24	2,246	2,077	4,417
前年同期對増減	0	+ 7	(+ 7)	+ 3	+ 159	+ 524	+ 693

備考

(1) 名譽會員新加入 (昭和 16 年 2 月 25 日評議員會推薦)

日本製鐵株式會社々長 平生 夙 三 郎君

日本鐵鋼協會前會長 元日本製鋼所取締役會長 現同所顧問

海軍少將 工學博士 水 谷 叔 彦君 (正會員より推薦)

(ロ) 維持會員新加入及び異動

新 加 入		退 會		事 由
日産自動車株式会社	1口			
汽車製造株式会社	1口			
石産金屬工業株式会社	1口			元小島電氣製鋼株式会社 (合併)
芝浦共同工業株式会社	1口			
昭和特殊鋼株式会社	1口			
日本高周波重工業株式会社	1口			正會員より轉格
不二越鋼材工業株式会社	1口			
國光製鎖鋼業株式会社	1口			
東京シャリング株式会社	1口			
東亞化學製鎖株式会社	1口	大阪製鎖株式会社	1口	改稱 繼承
東京芝浦電氣株式会社	1口	株式会社芝浦製作所	1口	合併 改稱 繼承
大谷重工業株式会社	1口	東京ロール製作所	1口	改稱 繼承
三菱鋼材株式会社	2口	東京鋼材株式会社	2口	改稱 繼承
日本鋼管株式会社 (追加)	3口	鶴見製鐵造船株式会社	3口	合併 繼承
		鑄物機械製造株式会社	1口	都合上退會
		大阪製鋸株式会社	1口	尼崎製鋼所へ合併解散に付き退會
計 14 社	17 口	計 7 社	10 口	差引 + 7 社 (+ 7 口)

(ハ) 贊助會員新加入

磨鋼鋸及びシャリング業 則武岩松君
 日本鑄造株式会社々長 關根要八君
 鋼商 袴宇市之助君

(ニ) 死 亡 者

役員 松田貞治郎君
 名譽會員 服部 漸君 ハットフィールド君
 正會員

中野 弘策君 北村 眞君 西崎鶴太郎君 谷山 熊雄君
 加瀬 泰一君 風間武三郎君 板垣 安二君 山本 眞一君
 平瀬 洪彦君 垣内 淳君 村田榮太郎君 高橋説次郎君
 有坂 紹藏君 萩原 時次君

准會員
 四本 彰君 高田 元弘君 川崎 誠一君 赤川 幸雄君
 大内雄太郎君 赤坂 誠一君 高橋 貫治君
 以上 24 氏を喪ひたるは痛惜の至りなり、尙以上諸氏の訃に接しては弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

3. 會誌發行及び印刷物

(イ) 本會々誌「鐵と鋼」自第 26 年第 3 號至第 27 年第 2 號
 (ロ) 講演大會講演大要 春秋 2 回

4. 庶務事項

- A. 第 25 回通常總會 昭和 15 年 4 月 2 日
- イ 任期滿了役員、會長、理事、評議員改選並に新增員評議員選舉 (投票、開票)
 - ロ 昭和 14 年度會務報告
 - ハ 昭和 14 年度收支決算報告
 - ニ 昭和 15 年度收支豫算報告
 - ホ 本會定款並に定款施行細則改正決議
 - ヘ 服部賞牌及び服部賞金贈呈式
 - ト 俵賞金贈呈式
 - チ 渡邊賞牌贈呈式

B. 臨時總會 昭和 15 年 5 月 13 日

- イ 定款改正に據る副會長委囑 (理事互選)
 副會長 吉川 晴十君
- ロ 定款改正に據る増員理事の選舉 (投票・開票)
 石田 四郎君 山田良之助君

C. 理 事 會 (毎月最初水曜日)

- 1) 入退會者審査承認
 - 2) 毎月會務並に會計事項審査
 - 3) 理事及び常務委員職務分擔
- | | | |
|------|--------|--------|
| | 理 事 | 常務委員 |
| 副會長 | 吉川 晴十君 | |
| 庶務 | 井村 竹市君 | 石原 善雄君 |
| 會計 | 鹽澤 正一君 | 練谷 俊平君 |
| 研究調査 | 田中 清治君 | 志村 繁隆君 |
| 講演 | 石田 四郎君 | 池田 正二君 |
| 編輯 | 山田良之助君 | 三島 徳七君 |

4) 編輯委員委囑更改

委員解任
 鹽澤 正一君 田中 清治君 石田 四郎君 山田良之助君
 委員委囑

石川 薫君 石田 求君 横山 均次君 前田 六郎君
 志村清次郎君 大原 久之君

5) 電氣製鋼研究會委員委囑更改

委員解囑 (第 2 小委員會) 林 狷之介君 荒川 直三君
 (第 3 小委員會) 大立 廉君 小塚 壽吉君
 (第 4 小委員會) 和田 懿君
 委員委囑 (第 2 小委員會) 井門 文三君 川上 義弘君
 垣内富士雄君 藤村 哲之君
 淺野 輝君
 (第 3 小委員會) 高橋 隆君
 (第 4 小委員會) 正親 見一君

6) 鋳物研究會の設置 (日本鋳物協會と聯合)

7) 鋳物研究會委員長, 同會幹事, 委員及び幹事委囑, ○は幹事

委員長 石川登喜治君
同會幹事 石原善雄君 網谷俊平君
第1小委員會 委員

○石田 求君○大塚 誠之君 石原 善雄君 濱住松二郎君
横山 勝任君 高橋哲四郎君 小林子之輔君 米樹健治郎君
恒松 成光君

第2小委員會 委員

○井上 豊君○網谷 俊平君 石川 薫君 牟田 耕一君
柳 武君 松浦 春吉君 青木 元直君 阿部 芳雄君
樋上 賀一君 菊地 環君 結城 竹治君 見須 二郎君
大垣 梅雄君 小林子之輔君 濱住松二郎君 田村 勝人君
米樹健治郎君 恒松 成光君 田口 由三君 田中 淳介君

第3小委員會 委員

○石川 薫君○松浦 春吉君 馬場 狂介君 小畑菊次郎君
岡田 知彦君 勝間 春三君 吉岡佐一郎君 吉田 正夫君
田中 光造君 瀧川 廉雄君 田村 勝人君 中野 正義君
野坂 賢次君 松倉 眞一君 阿部 芳雄君 齋藤 豊三君
齋藤 彌平君 百合 壽馬君 結城 竹治君 樋口 重友君
井上 豊君 米樹健治郎君 恒松 成光君 田口 由三君
田中 淳介君

第4小委員會 委員

○齋藤 豊三君○齋藤 彌平君 石田 求君 馬場 狂介君
小畑菊次郎君 吉岡佐一郎君 吉田 正夫君 百合 壽馬君
樋口 重友君 恒松 成光君 田口 由三君

8) 定款改正に伴ふ服部博士記念資金取扱規則の改正(昭和15年5月13日)

解囑

○山縣 愷介君 伍堂 卓雄君 二階堂行健君
委囑

○井村 竹市君○田中 清治君○鹽澤 正一君○山田良之助君
○石田 四郎君 三島 徳七君 (○印ハ幹事)

9) 日本鋼管資金委員委囑更改

解任 山縣 愷介君
委囑 石田 四郎君

10) 野田文庫委員會委員委囑

委囑 河村 曉君 (新任) 水谷 叔彦君 (重任)

11) 日本學術振興會第19小委員會と聯合, 熔鋼温度測定法講習會開催

12) 大日本窯業協會と聯合, 電氣製鋼用珪石煉瓦標準規定に關する座談會開催

D. 評議員會

- 1) 評議員半數改選に就き推薦候補者選定
2) 監事1名選舉 (第26回通常總會終了後就任)
3) 増員理事2名の推薦
4) 全日本科學技術團體聯合會に加盟の件
5) 昭和15年度收支決算に關する件
6) 昭和16年度收支豫算に關する件
7) 評議員故松田貞治郎君補缺選舉 當選者 伊集院清彦君
8) 香村博士寄贈資金取扱規則第9條臨時適用の件

9) 香村賞牌受領者選定

受領者 遠藤 彦造君
受領者 足立 泰雄君 (第9條に據る)
香村賞金受領者選定 (第9條に據る)

受領者 根本 茂君 結城 竹治君 百合 壽馬君 渡邊 義雄君

10) 依賞受領者選定

學術上優秀論文 早矢 仕 功君
「高温度に於ける鐵の窒素吸着並に吸收に關する研究」
鐵と鋼 第26年第2號
技術上優秀論文 園田 一 夫君
「ロール孔徑が壓延能率に及ぼす影響並にその時間的研究」
鐵と鋼 第26年第6號

11) 渡邊賞牌受領者選定

受領者 甲藤 新君
渡邊賞金受領者選定
受領者 朝倉 潮君 河合 正吉君 古賀喜衛門君 松井源次郎君

E. 編輯委員會 (毎月最終水曜日)

- 1) 會誌每號掲載原稿審査選定
2) 會誌並に其の他刊行物の編輯
3) 講演大會研究會等の開催準備並に實行
4) 鐵鋼要覽編纂中
5) 購入圖書の選定

F. 服部博士記念資金委員會 (昭和16年2月25日)

- 1) 第11回服部賞 受領者選定
賞牌受領者 佐々川 清君
賞金受領者 芦原光太郎君 大室 唯市君 大野 宏君
2) 昭和15年度服部博士記念資金收支決算報告
3) 昭和16年度服部博士記念資金收支決算報告

G. 野田文庫委員會

- 1) 購入圖書の選定
2) 圖書目錄の編纂

H. 官廳事項

- 1) 定款改正理事評議員定員増加の件等認可申請 (昭和15年5月23日 文部省認可)
2) 商工大臣宛鐵鋼要覽編輯用紙配給に關する申請書 (昭和15年7月27日 上申認可)

I. 事務員異動

採用 年月日 解僱 年月日
昭和 15-4-23 — 小田 忠介
昭和 12-1-1 昭和 15-8-31 小島 正司
(同年8月より應召中のもの)

J. 日本鐵鋼協會關西支部

- 1) 定款變更商議員増員の件

5. 講演大會

第23回 講演大會 昭和15年4月 東京に於て
出席者 453名 講演數 40
第24回 講演大會 昭和15年10月 神戸に於て
出席者 913名 講演數 39

6. 講演會

回 數	年月日	演 題	講 演 者	講演時間	聽講者數
第 1 回	15- 3-23	構造用鋼に添加せらるゝ特殊元素の 効果に就て 硫安製造、石炭液化等に使用する高 圧塔鍛造の狀況 (映畫) 獨逸國歴史の篇、クルツプ工場の 125 年間の發展の狀況 (發聲映畫)	日本特殊鋼株式会社 技師 玉置 正一君	1- 01	317
			クルツプ會社代表 ソルター・レムケ君 提 供	1-30	
第 2 回	15- 5-13	鐵鋼需給統制に就て 耐火煉瓦としての北支高礬土質粘土 に就て	商工省鐵鋼局調整課 事務官 保科 治朗君 大阪窯業耐火會社 技師長 青木 熊雄君	0-55 1- 0	167
第 3 回	15- 6-21	英國に於ける鑄物の現状	廣海軍工廠 海軍技師 工學士 藤田 忠男君	2- 30	89
第 4 回	15- 7-26	航空機用特殊鋼の趨勢 歐洲戰線に於ける獨軍航空隊の活躍 (發聲映畫) 我海軍荒鷲隊の爆撃 (發聲映畫)	陸軍航技中佐 工學士 高瀬 孝次君	1- 0	279
			海軍々事普及部試寫	1-30	
第 5 回	15- 9-24	鐵道に於ける鐵鋼材の最近の問題に 就て アメリカに於ける最近のロールに就 て	鐵道技師 工學士 島 秀雄君	1- 0	101
			日立製作所 工學士 宮下格之助君	1- 0	
第 6 回	15-11- 8	熔鑄爐の酸性操業と鹽基性操業に就 て 日鐵に於ける熔鑄爐の酸性操業に就 て	昭和製鋼所 技師 堀 英三郎君	1- 0	178
			日本製鐵株式会社 技師 工學博士 谷口 光平君	1- 0	
第 7 回	16- 1-24	日鐵富士製鋼所に於ける鐵石法に就 て 歐洲戰線に於ける獨軍ニュース (發聲映畫) 我海軍近況 (發聲映畫) 海軍省貸下	日本製鐵株式会社技術部 製鋼課長 工學士 藤村 哲之君	1-10	320
			獨逸大使館提供	1-30	
第 8 回	16- 2-27	鋼の高速表面焼入法(トッコー法) に就て 大野式コークス爐の着想経緯と其の 機能に就て	川崎航空機工業株式会社明石工場 鑄造課長 西村 文男君	1- 15	168
			日本製鐵株式会社八幡製鐵所 第一コークス課長 大野 宏君	1-20	

7. 研究調査事項

研究部會回次	部 門 別	題 名	開 催 時 日	開催地名
機械學會、鐵鋼協會聯合部會 第 20 回 研究部會	第 3 回 燃料經濟部會 鑄物研究部會 同上	第 3 回 自動車用鐵鋼材研究會	昭和 15 年 3 月 2 日	東 京
鑄物協會、鐵鋼協會聯合部會 同		熔 鋼 爐 熱 勘 定 研 究 會	昭和 15 年 4 月 1 日	東 京
第 21 回 研究部會	第 12 回 製鋼部會	鋼鑄物研究會(第 1 回委員總會)	昭和 15 年 5 月 16 日	東 京
同		同上(第 1 回幹事總會)	昭和 15 年 8 月 6 日	東 京
第 22 回 研究部會	第 4 回 燃料經濟部會	電氣製鋼研究會(第 3 次)	昭和 15 年 10 月 16 日	神 戸
日本學術振興會、鐵鋼協會聯合 大日本窯業協會、鐵鋼協會聯合	(講 習 會)	製 鉄 製 鋼 熱 効 率 研 究 會	昭和 15 年 11 月 8 日	東 京
	(座 談 會)	熔 鋼 溫 度 測 定 法 講 習 會	昭和 15 年 12 月 5、6、7、9 日	東 京
		第 3 回 製鐵鋼用耐火物座談會	昭和 16 年 1 月 16 日	東 京

8. 表 彰 (昭和 15 年 4 月 2 日第 25 回通常總會に於
て贈呈)

A. 第 10 回服部賞牌及び賞金贈呈

賞牌受領者

株式會社昭和製鋼所技師 工學士 福井 眞君

賞金受領者

日本製鐵株式会社八幡製鐵所製鉄部長 工學士 伊能 泰治君

南滿洲鐵道株式會社技術研究所調査役 參事 井上 愛仁君

日本製鋼所室蘭製作所 技師 太田 健一君

日本製鐵株式会社八幡製鐵所 兒玉 藤八君

日本製鐵所室蘭製作所職員 高橋 三平君

株式會社神戸製鋼所 副參事 原 行三君

日本特殊鋼株式会社鍛造係長 技師 堀 半造君

株式會社宮製鋼所製鋼部長 藤口 清一君

日本製鐵株式会社八幡製鐵所技師 毛利 英熊君

B. 香村賞牌贈呈 なし

C. 第 6 回俵賞金贈呈

學術上優秀論文

秋田鑛山専門學校教授 工學士 志村清次郎君

技術上優秀論文

日本製鐵會社八幡製鐵所研究部 技師 工學士 大原 久之君

D. 第 2 回渡邊賞牌及び賞金贈呈

賞牌受領者 東京帝國大學教授 工學博士 吉川 晴十君

賞金受領者 なし

9. 圖 書

寄贈圖書受付總數 26 冊

野田文庫購入圖書 37 冊

2. 昭和 15 年度收支決算報告

貸借對照表

第(1)號

(昭和 16 年 2 月末日)

勘定科目 (資産)	内 譯	金 額	勘定科目 (負債)	内 譯	金 額
(什 器)		2,532.56	(未 收 會 費 見 返)		1,519.70
(電 話)		800.00	小 計		1,519.70
(圖 書)		1,429.59	(資 金)		700,475.36
(敷 金)		855.00	前年度より繰越高	669,803.46	
(保證金代用有價證券)		1,044.84	本年度増加額	30,671.90	
會誌發行保證金	907.00		別口資金 ¥ 15,936.78		
約束郵便保證金	137.84		事業資金 ¥ 14,735.12		
(分讓印刷物)		250.00	昭和 16 年度 2 月末日		
以上 6 口固定資産			資 金 内 譯		
計 ¥ 6,911.99			鐵鋼資料編纂資金	18,350.29	
(有 價 證 券)		14,819.50	事務員退職給與基金	2,009.80	
(信 託 金)		55,238.66	服部博士記念資金	20,411.33	
(銀行預金)		10,881.24	香村博士寄贈資金	26,789.26	
定期預金	2,629.08		俵博士記念資金	5,183.92	
特別當座預金	8,252.16		河村博士寄贈資金	6,203.99	
(振替貯金(口座基金を含む))		27,730.23	野田文庫資金	131,919.95	
(現 金)		457.89	日本鋼管會社寄贈資金	319,921.31	
以上 5 口流動資産			日本特殊鋼會社寄贈資金	53,646.00	
計 ¥ 109,127.52			別 口 資 金 計	584,435.85	
(別口野田文庫資産什器)		3,221.50	事 業 資 金	116,039.51	
(同 圖書)		9,566.96			700,495.36
(別口資金見返有價證券)		243,070.00			
服部博士記念資金	20,000.00				
香村博士寄贈資金	20,000.00				
俵博士記念資金	5,000.00				
日本鋼管會社寄贈資金	198,070.00				
(別口資金見返信託金)		256,203.99			
河村博士寄贈資金	6,203.99				
野田文庫資金	100,000.00				
日本鋼管會社寄贈資金	100,000.00				
日本特殊鋼會社 "	50,000.00				
(別口資金見返銀行預金)		71,773.01			
服部博士記念資金	411.33				
香村博士寄贈資金	6,789.26				
俵博士記念資金	183.92				
鐵鋼資料編纂資金	18,350.29				
事務員退職給與基金	2,009.80				
野田文庫資金	18,531.10				
日本鋼管會社寄贈資金	21,851.31				
日本特殊鋼會社 "	3,646.00				
(別口野田文庫見返振替貯金(口座基金を含む))		600.39			
以上 6 口別口資金見返資産					
計 ¥ 584,435.85					
(未 收 會 費)		1,519.70			
		701,995.06			701,995.06

昭和 15 年度 收支 決算

第 (2) 號

(自昭和 15 年 3 月 1 日 至昭和 16 年 2 月末日)

支 出	内 譯	合 計	收 入	内 譯	合 計
(會 誌 印 刷 費)		24,448.00	(維 持 會 員 會 費)		15,000.00
(版 類 製 作 費)		1,436.18	(贊 助 會 員 會 費)		900.00
(別 刷 印 刷 費)		3,462.88	(正 會 員 會 費)		20,818.18
(原 稿 料)		1,511.48	(准 會 員 會 費)		14,333.88
(約 束 郵 便 料)		1,290.73	(入 會 金)		949.00
(俸 給 及 び 手 當)		12,992.60	(印 刷 物 分 讓 料)		3,792.32
(借 室 料)		3,420.00	(廣 告 料)		13,432.90
(會 合 費)		647.78	(公 社 債 利 子)		760.48
(臨 時 總 會 費)		316.61	(振 替 貯 金 利 子)		376.38
(日 本 工 學 會 費)		200.00	(銀 行 預 金 利 子)		224.26
(講 演 會 費)		1,409.74	(信 託 金 收 益)		2,040.58
(事 務 費)		8,084.76	(鐵 鋼 試 料 分 讓 料)		35,249.07
(關 西 支 部 費)		700.00	(雜 收 入)		29.35
(圖 書 費)		169.77	(大 會 收 入)		3,129.20
(什 器 費)		369.00			
(大 會 費)		6,956.12			
(鐵 鋼 試 料 買 入 代 金)		26,293.60			
(事 務 員 退 職 給 與 基 金)		2,000.00			
(豫 備 金)		1,140.00			
小 計		96,849.25	内 ¥ 10.00 振替貯金口座基金		
差引本年度收入超過金		14,186.35			
		111,035.60			111,035.60
			本年度資金増加額照合表		
			收 入 増 加 額		14,186.35
			(上 記 の 通 り)		
			(追加)		
			支 出 中 資 産 に 還 元 額		(+) 548.77
			振替貯金口座基金	(+) 10.00	
			圖 書 費	(+) 169.77	
			什 器 費	(+) 369.00	
			差 引 増 額	(+) 548.77	
			合計 本年度資金増額		14,735.12

別口資金收支決算表

第(3)號

(自昭和15年3月1日 至昭和16年2月末日)

口別	支出	金額	收入	金額	備考
(1) 鐵編 鋼募 資 料 金	(雜給) 485.20 (印刷費) 12.00 (雜費) 13.08 小計 510.28 差引次年度繰越高 18,350.29	18,860.57	(銀行預金利子) 337.01 小計 337.01 前年度より繰越高 18,523.56	18,860.57	
(2) 事退 職基 務給 員與 金	次年度繰越高 2,009.80	2,009.80	(普通會計より繰入金) 2,000.00 (銀行利子) 9.80	2,009.80	
(3) 服 部 博 士 記 念 資 金	(賞金) 900.00 (賞牌製作費) 63.40 (同副賞金) 300.00 (受賞者招待費) 35.00 (賞狀用紙及び揮毫料) 10.00 (印刷費) 77.10 (信託手数料) 10.00 (雜費) 10.06 小計 1,405.56 差引次年度繰越高 411.33	1,816.89	(公債利子) 1,000.00 (銀行預金利子) 8.93 小計 1,008.93 前年度より繰越金 807.96	1,816.89	
(4) 香 寄 村 贈 博 士 資 金	(證券保護預手数料) 1.90 (雜費) 1.00 小計 2.90 差引次年度繰越高 683.35	686.25	(公債利子) 250.00 (銀行預金利子) 27.89 小計 277.89 前年度より繰越金 408.36	686.25	
(5) 依 記 念 博 士 資 金	(賞金) 200.00 (賞狀用紙及び揮毫料) 2.00 (受賞者招待費) 7.00 (雜費) 2.55 小計 211.55 差引次年度繰越高 183.92	395.47	(債券利子) 215.00 (銀行預金利子) 2.16 小計 217.16 前年度より繰越金 178.31	395.47	
(6) 河 寄 村 贈 博 士 資 金	次年度繰越高 1,203.99	1,203.99	(信託收益) 229.17 (前年度より繰越金) 974.82	1,203.99	
(7) 野 田 文 庫 資 金	(圖書費) 1,812.14 (印刷費) 521.64 (雜費) 170.87 小計 2,504.65 差引次年度繰越高 19,131.49	21,636.14	(信託收益) 3,800.00 (定期預金利子) 439.38 (銀行預金利子) 71.11 (振替貯金利子) 14.06 (雜收入) 15.20 小計 4,339.75 前年度より繰越金 17,296.39	21,636.14	支出中財産還元額 ¥ 1,812.14 内譯 圖書 1,812.14
(8) 日 會 社 日 本 鐵 鋼 管 贈 資 金 式 株 式 會 社	(研究部會費) 3,426.66 (印刷費) 242.50 (通信費) 50.92 (雜費) 160.24 小計 3,880.32 差引次年度繰越高 21,851.31	25,731.63	(公債利子) 3,500.00 (社債利子) 4,200.00 (信託收益) 3,800.00 (銀行預金利子) 297.71 小計 11,797.71 前年度より繰越金 13,933.92	25,731.63	
(9) 日 會 社 日 本 特 殊 鐵 鋼 贈 資 金 式 株 式 會 社	(賞牌製作費) 41.40 (同副賞金) 300.00 (受賞者招待費) 3.50 (賞狀用紙及び揮毫料) 1.00 (雜費) 1.82 小計 347.72 差引次年度繰越高 840.56	1,188.28	(信託收益) 760.00 (銀行預金利子) 8.09 小計 768.09 前年度より繰越金 420.19	1,188.28	

財 産 目 録

第(4)號

(昭和15年2月末日現在)

摘 要	昭和15年2月 末 日 現 在	昭和16年2月 末 日 現 在	差 引 増 (+) 減 (-)	備 考
資 産 の 部				
(什 器)	2,163.56	2,532.56	(+) 369.00	
(電 話)	800.00	800.00		
(圖 書)	1,259.82	1,429.59	(+) 169.77	
(敷 金)	855.00	855.00		
(保 證 金 代 用 有 價 證 券)	1,044.84	1,044.84		
甲號五分利壹千圓會社發行保證金	907.00	907.00		
公債額面				
み號 " 壹百五十圓約束郵便 "	137.84	137.84		
(分 讓 印 刷 物)	250.00	250.00		
(有 價 證 券)	14,819.50	14,819.50		
東京電燈社債 額面 壹千圓	1,000.00	1,000.00		
東洋拓殖債券 " 壹萬參千圓	12,870.00	12,870.00		
帝國五分利公債 " 壹千圓	949.50	949.50		
(信 託 金)	53,198.08	55,238.66	(+) 2,040.58	
三菱信託株式會社	29,573.52	30,707.88	(+) 1,134.36	
三井信託株式會社	23,624.56	24,530.78	(+) 906.22	
(銀 行 預 金)	7,780.80	10,881.24	(+) 3,100.44	
住友銀行東京支店定期預金	2,556.18	2,629.08	(+) 72.90	
三菱銀行特別當座預金	5,224.62	8,252.16	(+) 3,027.54	
振替貯金(口座基金を含む)	18,773.64	27,730.23	(+) 8,956.59	
(現 金)	359.15	457.89	(+) 98.74	
(未 收 會 費)	905.05	1,519.70	(+) 614.65	
小 計	102,209.44	117,559.21	(+) 15,349.77	
別口見返資金(別口財産目錄通)	568,499.07	584,435.85	(+) 15,936.78	
合 計	670,708.51	701,995.06	(+) 31,286.55	
負 債 の 部				
未 收 會 費	905.05	1,519.70	(+) 614.65	
合 計	905.05	1,519.70	(+) 614.65	
差 引 財 産 現 在 高	669,803.46	700,475.36	(+) 30,671.90	

別口財産目録

第(5)號

(昭和16年2月末日現在)

摘 要	昭和15年2月 末日現在	昭和16年2月 末日現在	差 引 增 (+) 減 (-)	備 考
1. 鐵鋼資料編纂資金	18,523.56	18,350.29	(-) 173.27	
三菱銀行特別當座預金	18,523.56	18,350.29	(-) 173.27	
2. 事務員退職給與基金	0	2,009.80	(+) 2,009.80	
三菱銀行特別當座預金		2,009.80	(+) 2,009.80	
3. 服部博士記念資金	20,807.96	20,411.33	(-) 396.63	
帝國五分利公債額面二萬圓	20,000.00	20,000.00	0	
三菱銀行特別當座預金	807.96	411.33	(-) 396.63	
4. 香村博士寄贈資金	25,686.43	26,789.26	(+) 1,102.83	
帝國五分利公債額面五千圓(甲)	5,000.00	5,000.00	0	
帝國五分利公債額面壹萬五千圓(乙)	15,000.00	15,000.00	0	
三菱銀行特別當座預金(甲)	408.36	683.35	(+) 274.99	
三菱銀行特別當座預金(乙)	5,278.07	6,105.91	(+) 827.84	
5. 倭博士記念資金	5,178.31	5,183.92	(+) 5.61	
東洋拓殖債券額面五千圓	5,000.00	5,000.00	0	
三菱銀行特別當座預金	178.31	183.92	(+) 5.61	
6. 河村博士寄贈資金	5,974.82	6,203.99	(+) 229.17	
三菱信託株式會社信託金	5,974.82	6,203.99	(+) 229.17	
7. 野田文庫資金	128,272.71	131,919.95	(+) 3,647.24	
三菱信託株式會社信託金	35,000.00	35,000.00	0	
三井 " " "	35,000.00	35,000.00	0	
住友 " " "	30,000.00	30,000.00	0	
三菱銀行定期預金	4,342.55	4,489.01	(+) 146.46	
三井銀行丸ノ内第二支店 "	4,342.55	4,489.01	(+) 146.46	
住友銀行東京支店 "	4,342.55	4,489.01	(+) 146.46	
三菱銀行特別當座預金	567.71	1,914.31	(+) 1,346.60	
三井銀行丸ノ内第二支店 "	1,267.57	980.19	(-) 287.38	
住友銀行東京支店 "	1,847.13	2,169.57	(+) 322.44	
振替貯金口座基金を含む)	586.33	600.39	(+) 14.06	
圖書	7,754.82	9,566.96	(+) 1,812.14	
什器	3,221.50	3,221.50	0	
8. 日本鋼管會社寄贈資金	312,003.92	319,921.31	(+) 7,917.39	
三井信託株式會社信託金	100,000.00	100,000.00	0	
三分半ラ號公債額面金十萬圓	98,050.00	98,050.00	0	
政府保證興業債券 " 十萬圓	100,020.00	100,020.00	0	
三菱銀行特別當座預金	3,633.29	7,033.82	(+) 3,400.53	
三井 " " "	3,937.04	4,123.00	(+) 185.96	
住友 " " "	6,363.59	10,694.49	(+) 4,330.90	
9. 日本特殊鋼會社寄贈資金	52,051.36	53,646.00	(+) 1,594.64	
住友信託株式會社信託金(甲)	20,000.00	20,000.00	0	
同 (乙)	30,000.00	30,000.00	0	
住友銀行東京支店特別當座預金(甲)	420.19	840.56	(+) 420.37	
同 (乙)	1,631.17	2,805.44	(+) 1,174.27	
合 計	568,499.07	584,435.85	(+) 15,936.78	

3. 昭和16年度收支豫算報告

昭和16年度經常費收支豫算

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
維持會員會費	15,500.00	會誌印刷費	35,000.00
正會員會費	25,000.00	版類製作費	1,700.00
准會員會費	18,000.00	別刷印刷費	3,500.00
入會金	500.00	原稿料	2,000.00
印刷物分讓料	4,000.00	約東郵便料	1,500.00
廣告料	15,000.00	俵給及び手當	14,000.00
公社債利子	735.00	借室料	3,420.00
振替貯金利子	400.00	會合費	1,000.00
銀行預金利子	250.00	工學會費	200.00
信託金收益	2,300.00	關西支部費	960.00
鐵鋼試料分讓料	36,000.00	事務務費	8,500.00
雜收	50.00	圖書費	300.00
		什器費	150.00
		講演會費	2,000.00
		大會費	4,000.00
		鐵鋼試料買入代金	30,000.00
		會館建設基金	5,000.00
		事務員退職給與基金	2,000.00
		豫備費	2,505.00
合 計	117,735.00	合 計	117,735.00

昭和16年度別口資金收支豫算

口 別	收 入		支 出	
	項 目	金 額	項 目	金 額
(1) (鐵鋼資料編纂資金)	前年度より繰越	18,350.29	鐵鋼要覽原稿料	6,250.00
	銀行預金利子	330.00	印刷製本圖工	10,385.00
	鐵鋼要覽賣却收入	9,000.00	雜給(筆耕)費	2,000.00
	計	27,680.29	豫次年度繰越	5,000.00
			4,045.29	27,680.29
(2) (事務員退職給與基金)	前年度より繰越	2,009.80	次年度繰越	4,029.80
	本年度普通會計より繰入	2,009.00		
	銀行預金利子	20.00		
	計	4,029.80	計	4,029.80
(3) (服部博士記念資金)	前年度より繰越	411.33	賞牌製作費	18.00
	基本公債利子	1,000.00	賞牌副賞	300.00
	銀行預金利子	4.50	賞狀用紙及び招待	300.00
			賞受印信雜次	14.00
			託刷手數	14.00
			年度繰越	40.00
	計	1,415.83	計	1,415.83

(4) (香村博士寄贈資金)	前年度より繰越高 基本公債利子	6,789.26	賞牌製作費	38.00
	銀行預金利子	1,000.00	賞牌副賞金	400.00
		120.00	賞狀用紙及び揮毫料	600.00
			賞狀受賞者招待費	21.00
			印費	21.00
			證券保護預手費	48.00
			雑次年度繰越	7.60
				15.00
	計	7,909.26	計	6,758.66
(5) (依博士記念資金)	前年度より繰越高 基本社債利子	183.92	賞狀用紙及び揮毫料	200.00
	銀行預金利子	215.00	賞狀受賞者招待費	7.00
		1.70	印費	7.00
			雑次年度繰越	10.00
	計	400.62	計	176.62
(6) (河村博士寄贈資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益	1,203.99	次年度繰越	1,443.99
		240.00		
	計	1,443.99	計	1,443.99
(7) (野田文庫資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益	19,131.49	圖書室設備費	1,700.00
	銀行貯蓄金利子	3,800.00	圖書目録印刷費	2,000.00
		500.00	圖書目録印刷費	600.00
		30.00	圖書目録印刷費	300.00
	計	23,461.49	計	18,861.49
(8) (日本鋼管會社寄贈資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益	21,851.31	研究部會費	4,500.00
	銀行公債利子	3,800.00	印刷通信費	2,500.00
		3,500.00	印刷通信費	500.00
		4,200.00	印刷通信費	1,000.00
		350.00	印刷通信費	25,201.31
	計	33,701.31	計	33,701.31
(9) (日本特殊鋼會社寄贈資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益	840.56	賞牌製作費	18.00
	銀行利子	760.00	賞牌副賞金	400.00
		23.00	賞狀用紙及び揮毫料	300.00
			賞狀受賞者招待費	17.50
			印費	17.50
			證券保護預手費	14.00
			雑次年度繰越	856.56
	計	1,623.56	計	1,623.56

4. 任期満了評議員改選並に新增員評議員選舉 (投票開票)

評議員推薦候補者 (全員當選)

評議員 (40名)

石川登喜治君 ○伊能 泰治君 井上長太夫君 井上匡四郎君
井上 順三君 伊集院清彦君 二階堂行健君 西村小次郎君
本多光太郎君 戸村 理順君 ○大谷米太郎君 大河内正敏君
○岡崎 泰祐君 渡邊 義介君 桂 弁三君 景山 齊君
金子 恭輔君 吉田 豊彦君 ○田所 芳秋君 ○高瀬 孝次君
○堤 正義君 ○中原 津君 室井嘉治馬君 鶴瀨 新五君
○宇留野四平君 ○海野 三朗君 ○山岡 武君 山根 新次君
の場 幸雄君 ○松原武三郎君 松本健次郎君 藤井 寛君
○藤原 唯義君 藤田 俊三君 ○網谷 俊平君 鮎川 義介君
○齋藤 彌平君 澤村 宏君 ○佐々川 清君 ○木村 弘人君
水谷 浩君 白石元治郎君 ○志村 繁隆君 ○城 正俊君
島岡亮太郎君 島 安次郎君 ○廣瀬 政次君 末兼 要君
杉 政人君 ○角野 尙徳君 (○印は新當選者) 計 50名

備考 任期未了者

池田 正二君 石原廣一郎君 石原 善雄君 石原米太郎君
井上禮之助君 井上 克巳君 橋本 芳雄君 長谷川熊彦君
西山彌太郎君 徳永 晋作君 大村 正篤君 大崎 新吉君
小倉 正恒君 門野重九郎君 川上 義弘君 川崎含恒三君

横田 文吉君 吉岡 保貞君 田宮嘉右衛門君 高椋 正雄君
中井 勵作君 中田 義算君 中村 道方君 中山 悦治君
中松 眞卿君 村上武次郎君 打越 光保君 梅根常三郎君
久保田省三君 久保田權四郎君 工藤 治人君 黒田 泰造君
栗本勇之助君 山崎 章君 松田 義一君 松本與三郎君
牧田 環君 小日山直登君 伍堂 卓雄君 足立 泰雄君
荒木 宏君 淺田 長平君 齋藤 三三君 寒川 恒貞君
北村保太郎君 三島 徳七君 濵澤 正雄君 斯波孝四郎君
日高 鏡一君 尾藤加勢士君 計 50名 合計 100名

III 表彰者氏名及び推薦理由書

1. 受賞者氏名

イ. 第 11 回服部賞牌及び賞金贈呈

賞牌受領者

吳海軍工廠製鋼部々員海軍造兵大佐工學博士 佐々川清君

賞金受領者

株式會社神戸製鋼所製鐵部長參事 工學士 芦原光太郎君

吳海軍工廠製鋼實驗部 實驗工手 大室唯市君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所第一コークス課長 大野宏君

ロ. 第 8 回香村賞牌及び第 1 回香村賞金贈呈

賞牌受領者

東北帝國大學教授 理學博士 遠藤彦造君

(第9條適用)

商工省鐵鋼局調整課長 商工技師 工學士 足立泰雄君
賞金受領者(第9條適用)

日本鋼管株式會社 技師 根本茂君

株式會社日本製鋼所室蘭製作所 技師 結城竹治君

大阪陸軍造兵廠 陸軍技師 百合壽馬君

南滿州鐵道株式會社大連鐵道工場 副參事 渡邊義雄君

ハ、第7回優賞金受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部

技師 工學士 園田一夫君

海軍技術研究所々員 海軍技師 工學士 早矢仕功君

ニ、第3回渡邊賞牌及び第2回渡邊賞金受領者

賞牌受領者

株式會社日本製鋼所室蘭製作所企画部長

工學士 甲藤 新君

賞金受領者

大阪陸軍造兵廠研究所 陸軍技師 朝倉 潮君

三菱重工業株式會社社長崎製鋼所技師 理學士 河合正吉君

日本特殊鋼株式會社鍛鋼工場 主任技師 古賀喜衛門君

日本特殊鋼株式會社 技師 松井源次郎君

2. 表彰推薦理由書

イ、第11回服部賞牌並に賞金受領者

服部賞牌受領者

吳海軍工廠製鋼部々員

海軍造兵大佐 工學博士 佐々川 清君

君は大正10年東京帝國大學工學部冶金科を卒業し直に海軍造兵中尉に任ぜられ吳海軍工廠製鋼部に勤務し、間も無く佛國に留學して鐵鋼冶金學の蘊奥を究め、歸朝後再び吳海軍工廠へ戻り、爾來果進して今日に至る。君は多年兵器用鋼材の製造及び研究に従事して幾多の功績あり。又日本鐵鋼協會に於て屢研究の發表を爲して斯界に裨益せる所甚大なり。其の主なるものは鋼の高温に於ける諸機械的性質殊にその粘性に就ての研究、鋼鉛製造法、甲鐵製造法の改良等なり。尙最近に於てはタングステンとモリブデンとの熱電對による所謂吳式高温計を發明完成し、之によりて熔鋼温度の直接測定に成功し、製鋼作業の理論的研究に貢献せる所特に顯著なり。仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第7條に依り服部賞牌を受くる資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者

株式會社神戸製鋼所製鐵部長

參事 工學士 芦原光太郎君

君は大正6年京都帝國大學工學部探鑛冶金學科を卒業し、直に神戸製鋼所に奉職し、爾來主として製鋼作業に従事し、鋼材歴延作業をも兼ねて今日に至る。大正15年同社に線材工場設けらるゝや主力を線材の製造に注ぎ鋭意普通線材の製造に従事すると同時に當時全部を輸入に依存せし諸鋼索用硬鋼線材を製造すること國策上必要なりと認め同社常務取締役淺田長平氏の指揮指導及び東京製鋼株式會社の協力の下にその製造研究を始め漸次優良品の製出に成功し、次で昭和8年半連續式新線材工場完成するに及び進歩一層顯著にして遂に最も製造至難とする一般鋼索用たる炭素0.6%程度の硬鋼線材の製造に成功し、數年前より完全に輸入を防退するに至れり。尙一部輸入を免かれざりし炭素0.7%以上の硬鋼線材の製造に

就ても苦心研究の結果極めて良好なる成績を挙げつゝあり。之を要するに同君は本邦硬鋼線材製造に對し技術上の進歩發達に貢献せる所頗る大なり。仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條により服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

吳海軍工廠製鋼實驗部 實驗工手

大室 唯市君

君は大正6年11月吳海軍工廠製鋼部に入り、機器造修工場仕上工員として勤務し、昭和11年製鋼實驗部新設せらるゝや同部に轉じ同12年實驗工手を命ぜられ主として製鋼實驗用工作機械作業並に測熱方法の研究に従事し現在に及べり。其の間高温衝撃試驗裝置の考案、燒結工具、附刃バイト、特殊熔接棒等の研究並に各種實驗裝置の考案に上司を補佐し、有效的確にして貴重なる資料を案出し實驗研究業務に貢献せる所甚大なるものあり。特に最近には佐々川海軍造兵大佐指導の下に熔鋼温度測定用熱電對を完成し、從來至難とせられし熔鋼爐内の温度測定を容易且精確ならしめたり。是偏に同君が23年の永きに互り至誠一貫努力研鑽の結果なりと謂ふべし。仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に依り服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

日本製鐵株式會社八幡製鐵所第一コークス課長

大野 宏君

君は大正6年米澤高等工業學校應用化學科を卒業し、直に官營八幡製鐵所に就職し、上司を助けてコークス爐の建設及びその作業、副産物の處理作業に従事し業績大に揚れり。昭和5年選ばれて歐米に派遣せられ各國のコークス工業を視察し、爾來コークス爐の改良に研鑽苦心を重ね先には黒田式コークス爐の改良を助け又大野式を發明して各所にその建設を見るに至り以て時局下重工業の生産擴充に甚大なる貢献をなせしのみならず石炭乾餾工業を通じて一般工業に寄與する所尠からず仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に依り服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

ロ、第8回香村賞牌並に第1回香村賞金受領者

香村賞牌受領者

東北帝國大學教授

理學博士 遠藤彦造君

君は大正10年東京帝國大學理學部化學科を卒業、直に東北帝國大學金屬材料研究所に奉職し、講師助教授を経て昭和14年教授に任ぜられて今日に至る。其の間20年金屬に關する各種の研究を行ひ、40篇餘の研究業績を發表せるがその主要なるものは鐵鋼の腐蝕及び防蝕に關する研究なり。鐵鋼の腐蝕現象に就ては各種條件の下に於ける腐蝕現象を精細に研究して種々の新事實を發見し、腐蝕の機構に就てはコロイド説を反駁し電氣化學説と水酸化第一鐵の安定度に依て説明すべきことを提唱せり。防蝕に關しては安價にして耐酸耐蝕性大なる鋼を發見し耐鹽酸性及び耐硫酸性の鐵合金を研究して有效なるものを得又加工容易なる不銹鋼を發見し、更に高クロム不銹鋼が孔蝕又は洞蝕を起す條件を研究してその防止法を提出せり。又硫酸及び鹽酸に溶解する高クロム鋼に可變原子價を有する金屬イオンを添加する時は不動態化することを知り工業的にも重要な應用を提示せり。又化學的防蝕處理法を研究し、鹽基性磷酸鹽皮膜に依る有效なる防蝕處理法を發見しその他萘酸第二鐵による美術着色法、亜セレン酸による防蝕法等の發見あり。斯の如く同君は鐵鋼の腐蝕及び防蝕に關しその學理及び應用に就て著大なる研究業績を挙げ學術上並に技術上の進歩に顯著なる貢献をなせり。仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第4條により香村賞牌を受くる資格充分

なるものと認む。

商工省鐵鋼局調整課長

商工技師 工學士 足立 泰雄君

君は大正8年東京帝國大學工學部冶金科を卒業し、直に農商務省鑛山局に勤務し爾來鐵鋼關係事務主任技師として今日に至り、その間20年餘一意鐵鋼國策の確立指導に努め、製鐵事業法の制定及び運用、鐵鋼關稅政策の確立、日本製鐵株式會社の設立等常に我國鐵鋼行政の樞機に參畫し、鐵鋼生産力擴充に關しては逸早くその急務なるを唱導して計畫立案せるのみならずこれを實施したるは偉大なる功績と謂はざるべからず、支那事變勃發以來臨時物資調整局第一部第一課長として鐵鋼戰時對策の樹立施行を擔當し物資動員計畫の設定、運用、鐵鋼の生産配給に多大の努力をなし、又製鐵技術者懇談會を主宰して現下鐵鋼諸問題の技術的指導に任ずる等本邦鐵鋼事業の擴充統制並にその振興發達に貢獻せる所實に顯著なり、仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條に依り香村賞牌を受くる資格充分なるものと認む。

香村賞金受領者(第9條適用)

日本鋼管株式會社 技師

根本 茂君

君は大正2年東京高等工業學校を卒業、大正3年日本鋼管株式會社に入社し爾來27年間専ら同社川崎工場に於ける建設改良工事の任務を擔當し今日に至る。その間我國に於て製造困難とせられたる繼目無鋼管及び鍛接鋼管工場の建設或は改良を初めとし、平爐に對する重油焚燃装置及び小型ロール機によるスケルブ製造設備を完成し、最近に於ては我國最初のトーマス式轉爐製鋼工場を建設する等何れも我國に類例なかりし作業を成功せしめたるは製鋼技術上貢獻せる所甚大なりと謂ふべし、仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條に依り香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

株式會社日本製鋼所室蘭製作所 技師

結城 竹治君

君は大正5年仙臺高等工業學校冶金科を卒業し、直に日本製鋼所に入社し爾來25年の久しきに及び、その間同社室蘭製作所鑄造工場に於て専ら鑄鋼品の製作及び熔鋼作業に従事せり。同社の鑄造工場にて今日迄に製造したる大形鑄鋼品は艦船、機械、電氣その他各方面に亘り莫大の額に上り、又近年發達したる本邦高力水電用の大形鑄鋼品は殆ど全部同社の製造に係り、之等は凡て同君の研鑽苦心の下に製作せられたるものにして同君の本邦大形鑄鋼品の發達に貢獻したる所極めて大なり、仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條により香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

大阪陸軍造兵廠

陸軍技師 百合 壽馬君

君は大正10年大阪高等工業學校探鍊冶金科を卒業し、直に大阪砲兵工廠に奉職し、爾來20年間陸軍兵器鑄物の製造に従事して今日に及べり。その間鑄造技術の改善に盡瘁し有益なる考案をなしたる爲め上司より授賞せられしこと再三に止らず、特に砲彈の鑄造技術に就て造詣深く、多年刻苦研鑽の結果漸く製造方式を樹立せる鋼性銃彈の如きは今次事變に於て克く大量生産の要求に應じ貢獻する所甚大なり。

昭和12年事變勃發するや鋼彈擲出工場の主宰を命ぜられ日夜苦心の結果克く急需作業遂行上に遺憾なからしめその功績亦大なるものあり、仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條により香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

南滿洲鐵道株式會社大連鐵道工場

副參事 渡邊 義雄君

君は明治42年福岡縣立小倉工業學校機械科を卒業し、大正8年滿鐵會社に入社、沙河工場勤務を命ぜられ大正11年より現在に至る迄18年間工具類の製作及び修理に従事し兼務として日本刀鍛鍊の業務及び撫順炭礦並に鐵道技術研究所の業務に關與して今日に至る。その間SM滲炭防止劑を發明し、又日本刀の機械的多量鍛鍊方法を研究し硬軟の鋼を組合せて、昭和12年以來興亞一心刀として軍の要求に應じ實戦に使用して好評を博しつゝあり、尙硬質特殊鋼及びマンガン鋼用錐、支柱ガイドに取替棒を有するトランクジョッキ取替ブツシュを附せる曲柄軸、高速度鋼の切削屑を以て製せるガス盛金棒、盛金ツイストドリル、SM酸化炭防止劑、滿鐵型ニューマチックドリル等多數の發明考案によりて鐵鋼工業技術上貢獻せる所甚大なり、仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條により香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

ハ、第7回俵賞金受領者審定書

俵賞受領者

技術上有益なる論文

「ロール」孔徑が壓延能率に及ぼす影響並にその時間的研究
(第26年第6號)

日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部技師

工學士 園田 一夫君

學術上有益なる論文

高温度に於ける鐵の窒素吸着並に吸収に關する研究
(第26年第2號)

海軍技術研究所々員海軍技師

工學士 早矢 仕功君

ニ、第3回渡邊賞牌並に第2回渡邊賞金受領者

渡邊賞牌受領者

株式會社日本製鋼所室蘭製作所企畫部長

工學士 甲 藤 新君

君は大正9年東京帝國大學工學部冶金科を卒業し、直に株式會社日本製鋼所に入社、間もなく同社より選ばれて東北帝國大學理學部大學院に派遣せられ1年有餘に亘り特殊鋼に關する研究を遂げ、爾來同社熔鋼工場、鍛鍊工場、熱鍊工場及び改良部を経て企畫部に勤務し今日に至る。その間20年不斷の研鑽を積み、殊に同君の卓見に基づく鋼の病根防止に就ては多大の努力を拂ひ、一般平爐並に電氣爐による特殊鋼熔製法の改良と共に製出鋼塊の品質向上を圖り特殊鋼製品の材質改善に資したる功績は實に顯著なるものあり、現に君は企畫部長として社業の重要部面に參畫せられ技術の指導に努めつゝあり、又君は嚮に歐米出張中各國の重要工場を視察し特に英國に於ては製鋼技術の實地作業より學術的方面に亘り具に研鑽修得し來りその貴重な體驗を實作業に反映せしめて技術の向上に努力しつゝあり、斯くの如く同君の學術上並に技術上の進歩發達に貢獻せし所は實に顯著なりと謂ふべし、仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第4條により渡邊賞牌を受くる資格充分なるものと認む。

渡邊賞金受領者

大阪陸軍造兵廠研究所

陸軍技師 朝 倉 潮君

君は大正9年秋田鑛山專門學校冶金科を卒業し、直に株式會社日本製鋼所室蘭製作所に勤務す。昭和2年陸軍科學研究所に入り、更に昭和12年大阪陸軍造兵廠研究所附を命ぜられ今日に及ぶ。その

間一意専心金屬材料の研究調査に従事し外國兵器地金の調査或は新地金の研究によりて兵器の改善發達に資したる所尠からず。就中クロム鍍金の基礎的研鑽によりて幾多の兵器に實用し多大の効果を収め防彈鋼の熱處理と耐摩抗力との關係に就き未知の問題を解決して最近に於ける防彈鋼板熱處理の基礎を開き、又無ニッケル鋼の研究によりて不足資源の對策を講ずる等兵器用特殊鋼の改良發達に貢獻せる所甚大なり。仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

三菱重工業株式會社社長崎製鋼所 技師
理學士 河合 正 吉君

君は昭和12年東京帝國大學理學部物理學科を卒業後直に三菱重工業株式會社に入社し長崎製鋼所研究科勤務を命ぜられ、同所に於て鋼の物理的及び機械的方面の研究及び所内の研究機關の擴充に従事して現在に至る。同君が既に學界に發表せる研究業績には特殊鋼の滲炭熱處理、腐蝕割及び鋼の非金屬介在物、オーステナイト結晶粒度、特殊鋼の等溫變態等の基礎的研究ありて、特殊鋼の學術上並に技術上に貢獻せる所甚大なり。仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に依り渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

日本特殊鋼株式會社鍛鋼工場主任 技師
古賀喜衛門君

君は明治43年佐賀縣立佐賀工業學校機械科を卒業し、直に吳海軍工廠製鋼部に就職、主として工具鋼の焼入作業に従事せり。大正5年10月日本特殊鋼會社に入社して鍛鋼工場に勤務し、昭和4年技師に任ぜられ、爾來鍛鋼工場主任として勤務今日に至る。その間25年同君は同社の創業初期より勤務し社長渡邊博士の指導の下に孜々として航空機用特殊鋼の鍛鍊法並に高速度鋼の鍛鍊法の實地研究と共に進歩改善をなしたり。即ち鍛鍊方法の研究により白點發生防止に顯著なる實績を挙げ、又航空機用氣筒胴の鍛造法を改良してその品質向上と材料の節約とを行ひ又コバルトを多量に含有する高速度鋼は鍛鍊極めて困難なるが、最初此種高速度鋼の製造に着手以來日夜苦心研鑽の結果その加熱法と鍛鍊法とを體得し、以て製品の歩留を良好ならしめ且品質向上の實を挙げ得たり。斯の如く同君は特殊鋼製造技術の進歩發達に貢獻せる所甚大なり。仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に依り渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

日本特殊鋼株式會社 技師
松井源次郎君

君は大正5年岩手縣立盛岡工業學校機械科を卒業し、直に株式會社日本製鋼所に入社して室蘭製作所歷任係勤務となり、後東京瓦斯電氣工業株式會社に轉じ、大正10年12月日本特殊鋼會社に入社工具課勤務となり、螺工場及び焼入工場を擔當して今日に至れり。同君は日常の勤務繁劇なるに拘はらず諸種の發明考案をなして技術の進歩發達を促したり。就中同君發明の複合フライス製造法は刃先或は刃部外輪のみを高速度鋼とし、他は普通鋼或は他の材料を用ひるものにして高速度鋼の材料を節約し得ること甚大なり。高速度鋼用特殊元素缺乏の現状に鑑み本發明の如きは最も有用なるものと謂ふべく、同君の特殊鋼製造技術上に貢獻せる所頗る大なり。仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に依り渡邊賞を受くる資格充分なるものと認む。

IV 日本鐵鋼協會春季大會晚餐會記事

日 時 昭和16年4月2日(水)午後6時15分より

會 場 東京市麴町區丸ノ内3ノ4 帝國鐵道協會々館
會 費 金5圓

1. 出席者 (順位略) 167名

(招待者)

○見學工場主 5名

常松 四郎君(代理石黒一彦君)大村 正篤君 坂田三一郎君
岩間儀一郎君 堀 居太郎君

○表彰者 16名

佐々川 清君 芦原光太郎君 大室 唯市君 大野 宏君
遠藤 彦造君 根本 茂君 結城 竹治君 百合 壽馬君
渡邊 義雄君 園田 一夫君 早矢仕 功君 甲藤 新君
朝倉 潮君 河合 正吉君 古賀喜衛門君 松井源次郎君

○講演者 35名

俵 國一君 鈴木 芳郎君 森棟 隆弘君 菅野 猛君
松川 達夫君 三宅 貞信君 蜂谷 茂雄君 吉城 肇君
海江田弘也君 眞殿 統君 出口喜勇爾君 森脇 和男君
下田 秀夫君 大森 仁平君 八木貞之助君 松尾 覺郎君
井上 克巳君 田尻 惟一君 小林佐三郎君 池田 正君
雀部 高雄君 藤田 忠男君 梅澤光三郎君 西郷 吉郎君
柴田 仁作君 大倉 幸雄君 岩瀬 慶三君 堀田 秀次君
森寺 一雄君 泉 八郎君 吉田 尙君 足立 逸次君
阿部 三郎君 福島 政治君 三橋鐵太郎君

○實行委員 13名

池田 正二君 石原 善雄君 石川 薫君 石田 求君
銅金 義一君 横山 均次君 俵 信次君 山口 眞申君
前田 六郎君 網谷 俊平君 志村 繁隆君 志村清次郎君
齋藤 彌平君

○參加會員(○印は役員) 98名

○渡邊 三郎君○吉川 晴十君○河村 曉君○水谷 叔彦君
○齋藤 大吉君○井村 竹市君○石田 四郎君○田中 清治君
○山田良之助君○鹽澤 正一君○松下 長久君○山岡 武君
○齋藤 三三君○尾藤加勢士君○藤井 寛君○鶴瀨 新五君
○藤田 俊三君○藤原 唯義君○金子 恭輔君○濱住松二郎君
○橋本 芳雄君○川上 義弘君○桂 弁三君○城 正俊君
○杉 政人君○井上禮之助君○伍堂 卓雄君○澤村 宏君
○梅根常三郎君○二階堂行健君○金谷 三松君 松浦 春吉君
數納松次郎君 安藤 照通君 服部 宗三君 高見澤榮壽君
河合 成治君 朝倉 希一君 今本 愛一君 見谷 博史君
三浦義之助君 福留 富治君 濱田 三郎君 佐野 幸吉君
上野建二郎君 中村 幸雄君 野中 熊七君 榎本 利二君
坪田 隆利君 金井庄一郎君 藤本 稔君 間 忠誼君
戸村 道夫君 川村 重信君 高野 軍治君 柳田 繁君
佐藤 英夫君 小高 義通君 松瀬 幸一君 中村 元治君
小田村嘉穂君 井上 利宗君 梅澤 春香君 尾崎 眞一君
松本 正邦君 堺 茂次君 小島敏三郎君 永野清太郎君
布施 武雄君 伴 圭一君 半谷 豊君 福島 勉君
江原 浩介君 中山 五介君 原 茂樹君 寒川 恒夫君
梅津 七藏君 寺内 錦一君 門川 勳君 武田 喜三君
小松英次郎君 田口 由三君 松田 太郎君 前田 良雄君
ビー、シュミツツ君 古谷經太郎君 稻見 芳雄君
植田 勇二君 梶間 俊君 米田 健三君 林田 恒雄君
吉村 英文君 兒玉 政一君 堤 彦一君 仲矢 保君

奥田 秀次君 林 達夫君 山下 廣君

2. 卓上演説記録

渡邊三郎君(日本鐵鋼協會々長) 會を代表致しまして御挨拶を申上ります。今回當日本鐵鋼協會第 26 回の總會並に講演大會を開催致しまするに付懇親晩餐會を催しまして見學を御許し下さいました會社の社長殿並に講演者各位今回名譽の賞牌を授與されたる方々を御招待致しました處が時節柄極めて御多忙の節に不拘御臨席を忝ふ致しまして本會の光榮之れに過ぎず厚く感謝の意を表する者であります。又會員各位に於かれましては前會長諸先輩を始めとし奮つて御出席下さいまして司會者として、満足之れに過ぎず厚く御禮申上ります。御蔭を以つて日本鐵鋼協會も益々隆盛に向ひました事は御同慶の至りに存ずる次第であります。會員も 4,400 名を越え今回の出席會員數も 1,140 人に達し昨年のレコードを超過する盛況を呈するに至りました。今回の講演會におきましては講演題目並に内容が年と共に非常に進歩され學術の方面に於きましては、深く研究され又實地作業の方面におきましては時局柄最も痛切に感ぜらるゝ問題を取り上げられ作業の經驗を詳細に互つて御述べ下さりて目下の製鐵事業の重大時期に亘り、その進歩發達に寄與する處多大である事を考へまして深く謝意を表するものであります。又定めし明日も引續き立派なる御講演を拜聴する事と楽しみに致して居るのであります。

今回見學を御許し下さいました工場の主腦部におかれましては時節柄物資の極めて缺乏し又交通が如何にも不自由である時期におきまして而も只今申上げました様に出席人員も非常に多數に及びましたので、御案内食事其他萬端多大なる御手数に煩はし此の非常時期に當り格別なる御配慮を願つた事と深く恐縮致し厚く御禮を申上げる次第であります。

先刻總會の席上で申上げました様に日本の製鐵事業は今日迄は主として歐米を御手本とし之れに教へられて今日の域に達しましたが本邦の特殊な事情により原料石炭等の問題が歐米の如く平易に參らないと云ふ事情にありますので、殊に昨年 10 月 16 日の米國屑鐵輸出禁止の場合に立至りましたので研究方面に又實際方面に本邦特異の方案を廻らし鐵鋼を以て高度國防の完遂を圖り東亞の建設に邁進致さなければなりませんので、此際會員各位の御奮闘を御願ひする次第であります。此處に杯を上げまして授賞者諸君の名譽を祝福すると共に來賓各位會員諸君の御健康を祝するのであります。

【一同乾杯】 就きましては當會の先例によりまして 5 分間演説を承る事になつて居りますので甚だ僭越でありますその御指名を致す事を御許し願ひます。(拍手)

御許しを得ますれば先づ今日御出席を願ひました日本金屬學會會長本多先生に御話を願ひ度いと思ひます。

本多光太郎君(本會評議員) 御挨拶を申し上げたいと思ひます。日本鐵鋼協會は近年著しき發展を致されまして、會員も既に 4,000 名を越へて居るといふことで、まことに御目出度い次第であります。吾々の日本金屬學會は、日本鐵鋼協會を親とし兄として數年前に産れたものであります。幸ひにこの協會の御指導を得て次第に發達して參りますので、私共としても非常に感謝して居る次第であります。

日本金屬學會の出來ました頃に、よく或る一部にはかういふ考があつた。鐵鋼協會と金屬學會では餘り違はぬぢやないか、どういふ點に於て違ふか、新に金屬學會を造る必要があるかといふやうなことでありましたが、だんだん年が経まして、兩方の分野が明瞭となり、又兩方が互ひに聯絡して研究して來たゝめ鐵鋼及びその他金屬

の研究が益々盛んになりまして、まことに結構と存じて居る次第であります。鐵鋼協會は鐵を主眼として研究を進められるし、金屬學會は鐵以外の金屬を主眼として研究を進めて居るのであります。しかし鐵と金屬とは大變縁が近いのでありますから、これを點で表はしますれば、2 點が相當近い距離にある譯であります。したがつて若し研究範圍を半徑として圓を描きましたならば、鐵鋼協會を中心とした圓と、金屬學會を中心とした圓とが互ひに切合つて居り、その間には共通な部分があるのであります。今日最も盛に各方面に使用されて居る鐵合金がこの二つの圓に共通の研究領域であります。この領域は鐵鋼協會の方からも、研究をして然るべきであるし、又金屬學會の方からも研究して行くべきであります。兩方からこれを研究して初めて完全な研究が出来るのであります。かやうな共通の領域を持つて居りますから、鐵鋼協會と金屬學會とは益々親密の度を加へて行かなければならぬのである。又それが行くべき途であらうと思ふのであります。さういふ意味でこの二つの學會が協力して鐵鋼及び金屬の研究に邁進するといふことは殊に現下の非常時局に於て最も望ましいことであると思ひます。

金屬學會は生れてからまだ餘り年が立ちませぬ。胴體は大きくなりましたが、肝腎な頭腦がまだ充分發達して居りませぬ。これは兄貴分たる鐵鋼協會の御指導によつてだんだん整備して行きたいと考へてゐる次第であります。吾々は兩學會が今後益々親密になり、技術の向上に盡したいと願つて居る次第であります。どうか宜しく御指導を御願ひする次第であります。

終りに本夕は御招き下され御鄭重な御馳走にあづかりまして深く感謝致す次第であります。御禮を申上げて御挨拶と致します。(拍手)

渡邊會長 只今本多先生の御話しを承りまして有難うございました。次は御列席の陸軍を代表されて尾藤中將閣下に御願ひ致します。

尾藤加勢士君(評議員) 別に本日陸軍を代表して居る譯でも何でもございませぬが、近來國防色でなければ何でも幅が効かないやうな空氣になりまして、本日は是非何か話せといふ御命令でございました。別に陸軍を代表して申しませぬ。單なる會員として列席しましたが、旁々御命令によりまして、何か一言私の私見と致しまして希望なり御願ひなりを申し上げたいと思ひます。

本日も總會の席上で會長から御話がありました通りに、アメリカの屑鐵が禁輸になりまして、我が國は目下非常な製鐵事業に大困難を來して居ります。しかし私は、このことはもう昨年あたりから明かに前途が見えて居つたのでありまして、今更騒ぐのは少し遅いかと思ひますが、何といつても、怠慢と申しますか、我が工業力が足らないと申しますか、さういふ點で非常に遅れて居つたことを寧ろ遺憾に存じて居ります。しかし着々と色々な研究が進んで居りますことは、お互ひに國家の前途まことに慶賀の至りに堪へない次第であります。

たゞそれに關聯しまして、その中の一部分であるところの原鐵問題に關して私は少し感想をもつて居ります。丁度本日も澤山の原鐵に關する精練の御發表がありました。何れも御苦心の跡が歴々として居りまして、前途まことに洋々たるものがございまして、恰度今春の時候に百花爛漫と競ふやうな状態ではありますが、しかし忌憚なくこれを申し上げますと、遺憾ながらもまだ爛漫とまでは行かないやうな氣が致します。或は高周波の電撃があり、電氣爐によるものがあり。ロータリー・キルンを用ふるものがあり、或は平爐を用ふるものがあり、色々な方法がありますけれども、どうもまだ昨今の櫻の

やうに、一寸白い所を見せた程度ぢやないかといふやうな感じが致します。それで今國家として最も困つて居りますのは、今も申された通りに資源關係でございまして、これが自由の時代でありましたならば、研究として色々な方法を色々な方面からやるのが是非必要なことでありますけれども、今の資源の關係、資材の關係から、何とかして何れかに重點を置いてやらなければ、どれもこれも共倒れになるといふやうな風になりはしないかといふことを憂へて居ります。でありますから私は機會ある毎に陸軍省の當局なりその他の人に向つて、せめてこの原鐵問題だけでも何とか纏まるやうな方法をする必要があると申しますと、成程それは必要だ。大いにやりませう。と申しますけれども、私自身として無論今の所何の權威もなく、又相當の權威者でありまして、各種の方面から検討しまして、なかなか實現が困難であります。その方面には私もなるべく努力したいと思ひますし、又きうすることが國家の爲であると思つて居りますけれども、遺憾ながら今申上げた通りに各種の事情の爲に實現しませぬので、私の御願ひし希望を申し上げます所は、どうかこの原鐵の製造業者だけでも、委員會みたやうなものを拵へて、お互ひに技術を公開し、この講演の席上のみならず、現場の實際の技術を公開して、さうしてお互ひに長を採り短を捨て、行きましたならば、この今の資材の少い時に、或る重點に向つてお互ひに歩調を揃へて、さうして或る程度まで希望に達するかと存じます。どうか一つ、有力の皆様方が御集まりのこの席でございまして、何とかしてかういふ機運に向ふことを私は希望して已まない次第であります。私は大正10年頃アメリカに居りました時からこの川上閣下の後を承けまして、砂鐵問題に對しましては、實際はやりませぬが、相當色々な考察も致しました關係上、この原鐵問題につきましては特に非常に關心をもつて居ります。どうか一つさういふ點を御酌取り下さいまして、單に陸軍といふ意味でなくして、國家の爲に今申したやうな機運を御醸成下さいましてこの席上を拜借致しまして一言希望と御願ひを申し上げる次第であります。(拍手)

渡邊會長 それでは、甚だ御迷惑でございまして、海軍の技術研究所長二階堂中將閣下に御願ひ致します。

二階堂行健君(評議員) 私は只今御指名を戴きました二階堂であります。今夕は此處に御集まりの方々の中にも海軍の御出身で隨分大先輩の方々も御列席されて居らるゝので、私が御指名を受けますのは少し間違つている様な氣が致しますが、折角御指名を戴きましたので一言所感を述べさせていただきます。

先程會長から御話がありましたやうに、現下の非常時局に對しては鐵を以て立て、即ち「鐵鋼報國」せよ、とかういふ御言葉でしたが私はまことにそれを痛切に感じて居る次第でありまして、今それを國防海軍と云ふ點から見ますと先づ何と云つても其の戦闘單位は軍艦であります。この軍艦たるや兵器、船體、機關を問はず殆ど全部が鐵及びその關聯材料から成立つて居ることは皆さんの御承知の通りであります。言葉を換へて言ひますと、殆ど鐵、鋼各種類の集合體であるやうな感じも致します。さうして之を建造しますには機械工業、造船工業で常に其の當時での最優秀の科學と技術の粹を集めて造り上げるのでありますから各國とも其の「優秀さ」の差は極めて接近して居る様に思ひます。然るに材料關係では幸か不幸かまだまだ澤山の問題が残つてゐる様に思ひます。其の一例を云ひますと、軍艦は重量を極めて重視して居りますが、今同じ強度、同じ耐久力を持つ鋼板で其の厚さ僅かに數mmの差でも全體の重量にして數百tの差を生じ又同じ耐弾效力の甲板にしても其の厚

さ5~10mm位の差でも數百t、數千tの差は生じます。

斯くして得ました重量は燃料重油とか、又別に優秀の色々な兵器を餘分に搭載し得て戦闘能力を増す事が可能であります。今申しましたのはほんの一例でまだまだ澤山新材料の發見又は改良により他國に優れた戦闘力の艦を造り得るので此の點大に鐵鋼界に關係ある人々の高度國防國家建設に當り大なる奮起と責務を有すものと深く信ずる次第であります。

又全く別な方面の例であります。何にかの原因で故障を生じた場合に能くあるのですがそれが設計上或は工作上等を検討した上、結局原因のはつきりしませんが大抵は材料不良と云ふ事にされ勝ちであります。まことに迷惑至極な話でありまして、これは材料に關係するものゝ等しくその感を深くするのであります。原因のはつきりせぬ所は、材料が悪いからといふ一言には吾々は、非常にそこに勇氣と反撥心とが奮ひ立つのであります。此の意氣こそは誠に大切なものと信ずる次第であります。

今日午前から皆様の御研究を拜聴致し又色々な御成果を承りまして誠に力強く感ずる次第でありまして尙更に皆さんと協力一致しまして先程會長が申されましたやうに、鐵を以て國防國家を建設するやうに御努力御協力の程を偏へに御願ひする次第であります。まことにつまらないことを申しましたが、これを以て御挨拶と致します(拍手)

渡邊會長 次は明後日の見學工場の社長、横濱船渠の社長常松さんに御願ひ致します。

石黒一彦君 常松の代理でございまして一言御挨拶を申し上げます。今朝程から非常に高遠なる御高説並に貴重な御研究の御發表を拜聴させて戴きましたことを偏へに感謝申し上げます。尙今夕は盛大なる晩餐に招待を戴きまして、衷心より御禮を申し上げる次第であります。明後日4日は、甚だ整はない工場ではございまして、皆様の御見學を戴くことを心から感謝して居る次第でございまして。その道の最高の權威者多數が御來場下さいまして、不備の設備不束の技術を御批判御指導下さることを何よりの幸ひと存じて居ります。どうかその節は宜しく御鞭撻の程を御願ひする次第でございまして。甚だ簡單でございまして代理としまして一言御挨拶申し上げます。(拍手)

渡邊會長 次は各賞牌受賞者の代表として遠藤彦造さんにお話しを御願ひ致します。

遠藤彦造君 私は末輩でございましてお隣りの甲藤さん或は佐々川さんは私一高時代に存じて居りまして、甲藤さんは明かに私共の先輩でございまして。先輩を差措きまして受賞者を代表申し上げます。御諒承願ひます。古いながらも光輝あるこの鐵鋼協會がそれぞれの授賞を致しましたことは、私達實にこの上ない名譽と感佩する所があります。今後尙一層努力致しまして、國家の爲め、又本協會の御趣旨に副ひまして、この上とも熱心に研究を續け、又技術の研究に努めたい覺悟でございまして。私以外の皆さんは實力をもちまして本協會の御歴々の方々御眼鏡にかなひまして受賞されましたのであります。私は永年仙臺の金屬材料研究所に居りまして、本多先生の下に御指導を得まして研究して居る者であります。これ偏へに本多先生及び所長の村上先生の御力がございました爲にこの賞牌を受けたものと深く感謝する次第であります。

尙又本日は斯様な結構なる御馳走にあづかりましたことを重ねて御禮を申し上げます。この光榮を擔ひました爲にこのメインテーブルの末席に坐ることの光榮を得まして、偉い諸先生方の側に坐りました。おかげで先程から諸先生の御元氣な御言葉を承り、殊に先

生、齋藤先生などが、御老體と云ては失禮でございますが、御年を召して居られるに拘りませず、非常に御元気で、まるで私達が同僚の友達と話すやうに、非常に元氣に御快活に御話をなさつてゐるのを拜聴して居りますと實に愉快極まりない次第であります。私達は今後とも是非この諸大家諸先生の御指導を得まして今後とも國家の爲に働かねばならないと思ふのであります。たい諸先生方が非常に御元氣であられて、今後益々丈夫であられるであらうと私今感じましたので非常に心強く思ひお慶び申し上げますと共に邦家のための喜悅に堪へません、茲に御禮を申し上げて、今後一層の御支授を御願ひ致しますと共に私達の覺悟を申し上げまして御挨拶と致します。(拍手)

渡邊會長 次は、今回名譽會員に御推選申し上げましたところが快く御受け下さつた水谷前會長殿に御話を承りたいと思ひます。

水谷叔彦君(前會長) 私は是迄鐵鋼協會の晚餐會で御話を致す事はよい具合に免れて居りましたが、只今會長より御指名がありましたから起つことになりました。私は御覽の通り老人で恐くは此席上の一番老人と思ひます。そんな老人のことですから申上ぐることも勢ひ古いことであります。

御話を申上げる前に此御集りの此機會に一言述べさせて戴きたいことがあります。本日總會の席上會長より御報告になりました通り私は先頃名譽會員に御推擧を預りました。まことに無上の光榮に存じまして御受けを致したのであります。是れは私が永らく、日本製鋼所に關係致したことを考慮に入れられてのことと思ひます。私は永らく同所に勤めて居つたといふ丈でありまして、其間澤山の専門の人々の協同援助を得て勤続したに過ぎませぬ、此度私の上に賜りました榮譽は是等の人々と共に分ち享くべきものと存じます。私はそう云ふ心持ちで御受けを致し、又其意味で總會で御禮を申し上げましたが、茲に重ねて其意味で厚く御禮を申し上げます。

扱御話し致さうと思ひますことは古い話になりますが、かの日露戰役に於て聯合艦隊の中堅として活躍致しました戦艦富士、八嶋の建造のことから始まります。此2艦は明治26年英國に注文になり同29年に竣功致したものであります。其當時私は同國にありましたから親しく其建造の狀況、又關係の製鐵所、製鋼所等を見學する便宜を得ました。此兩艦は當時列強海軍中の最も新式の戦艦でありました。其當時私は我邦に於て如此軍艦を建造し得るに至るは果して何れの時であるか、私が生きて居る間に出来るかどうか、若しそれが實現すればどんなに心強く嬉しいことだらうと思ひました。私斗りでなく外の方々も同じ様に感じられたこと、存じます。然るに何んぞ圖らんその後10年少し過ぎの明治42年には裝甲巡洋艦の筑波、生駒が我工廠にて建造されました。此兩艦の鋼板は八幡製鐵所、甲板は吳工廠で製造されたものであります。生きて居る間に見得るや否やを疑ひましたことが僅に10年の後に實現しまして感慨に堪へぬ思ひを致したことがあります。其後我海軍の軍艦は年と共に優秀となり大正の末頃以來は列強の追従を許さざるものとなり、我邦の師匠でありました英國より色々インホーションを求め來る有様になりました。昨今太平洋波高きあ何時でも御出なさいと泰然として待機の姿勢であるといふことを聞きましてまことに御同様に心強い次第であります。我海軍が如此優勢なる有様に達したのは固より艦其物の計畫の優れたるが故であります、其計畫をなし得さしめたのは全く我邦に於て建造に必要な資財を製造し供給することを得た故であります。換言すれば我邦の鐵鋼界の進歩發達したため此協會の會員諸君の御精進の結晶に外ならぬのであると存じます。我製鐵業の進歩の爲めに凡ての重工業が發達しましたが我軍

艦の如く列強の追従を許さざるものあるに至りましたことは誠に喜ばしい限りと存ずる次第であります。尙常に今日の優位を保持し得る様鐵鋼事業の進歩を祈る次第であります。(拍手)

渡邊會長 では續きまして日本製鋼所社長の杉閣下に御話しを御願ひ致します。

杉政人君(評議員) 今晚の會には會費も出して居ますので別に話さねばならぬ義務はないと思つて安心して居りました。のみならず話が下手でして、その方から言ひましても話す資格はないと思つて居ますのに突然の呼出で誠に閉口します。しかし立たざるを得なくなり以上は、只自分が本當に心から感じましたことを御話し致したいと思ひます。

殊に此の時局に當り鐵鋼の非常に大切なことは私が申すまでもないことであり、然るに鐵礦そのもの、資源の利用に困難を感じるのみならず、これに附加する原料、設備、其他製鐵製鋼に要する諸材料の問題に於いて非常に厄介なことがありまして、此等の點につき、特に鐵鋼業の先覺の皆様が從來御苦心になつて居るといふことは常によく承知して居つたのであります。本日も相當に長い間色々の御講演を拜聴致しまして、理論の上から、又實際の上から、非常に御研究になつて居ります涙ぐましい御功績を知り同時に又聽いて居られる方々の御熱心の狀況即ち、或る方々は一言も聞き漏すまいと耳を聳て居られる。或る方々は懇々筆記迄もして居られるといふやうな所を見まして非常に感に打たれたのであります。これで初めて我が國の困つて居る狀況が本當に會員各位の頭に染み込んで居つて、どうかしてこの日本の當面する難局を一生懸命に突破しようといふ御覺悟の程を目の當り拜見しまして、特に感謝に堪へませぬと共に喜びに堪へない次第であります。どうかこの意氣を御捨てにならないで益々御發奮下さいまして、どうしても打勝たねばならないこの苦境を1日も早く突き抜け得ます様御奮闘を切望致します。私は相當永年鐵鋼の方に關係は致して居りますけれども、御承知の通り學問からいひましても、又經驗から申しましても、皆様に御話し致しまして何等かの御役に立つといふものを持たないことを非常にお恥かしく残念に思ふのみでただ皆様に以上を御願ひ致すより外に仕方がないのであります。これが前申しました通り私の本當の心持から出た聲であります。

此で私の御挨拶は御勘辨を願ひたいと思ひます。(拍手)

渡邊會長 次に、滿洲から遙る遙るこの會に御出席下さつた昭和製鋼の理事の梅根さんに御話しを御願ひ致します。

梅根常三郎君(評議員) 私は只今御紹介を受けました滿洲の昭和製鋼所に勤めて居ります梅根でございます。遠方に居ります關係上からいふ結構な會に何時も出ることが出来ませぬのですが、今度幸ひ此處に出ることが出来まして、昨日、今日、又明日、非常に有益な講演を拜聴させて戴きますことは、まことに有難く、非常に感謝する次第であります。この席を拜借致しまして、折角立ちましたから、滿洲の製鐵のアウトラインを一寸申上げまして、皆様の御諒解を得ると共に皆様に御詫びを致したいと思ふのであります。

滿洲には御承知の通り普通の製鐵をやつて居りますのは本溪湖と私の方だけでありまして、その他まだ特殊鋼は二三やつて居られますけれども、主なコンマercialなものとしましてはこの2會社であります。その中で、銑鐵のことだけを申上げますが、銑鐵は兩者を合せまして約200萬トンの施設をもつてゐるのであります。然るに現在はどうかと申しますと、まことに恥しい次第であります。御承知の通りに、アメリカのスクラップが來ないやうになりますことは

直接製鋼に非常な関係があります。申すまでもなくスクラップが手に入らなければその代用として鉄屑を取る外方法はないのであります。而して相當の設備を持つて居ります滿洲にて内地で御期待されることは非常に大きいと思ひますが、その御期待に副ふことの出来ぬことをまことに残念に思ふ次第であります。巷間傳ふる所によりますと、多少滿洲の製鐵の事情が誤解されて居るかの如く思ひますのでその點を一二申し上げたいと思ふのであります。

滿洲では200萬の施設を持ちながら相當量減産をしてゐるのは何故かと申しますと、現在約1,500のばかりの施設が遊んでゐる譯であります。昭和製鋼の方に2本と本溪湖の方に1本の熔鐵爐が休んで居る次第であります。然らば何故にさうであるかと申しますと、一言にして申しますとそれは石炭の関係があります。石炭の供給が充分でない爲に仕事が出来ないといふ譯であります。勿論石炭の外にまだ努力その他の関係もありますが、大きい問題は石炭であります。然らば石炭は滿洲にないかと申しますと、御承知の通りに滿洲には相當莫大な量を埋藏してゐる譯であります。しかも、私の方だけで申しますと、施設で年約170萬の出鉄能力をもつてゐる譯であります。之の設備を致しますに付ては慎重審議を致したのであります。即ち約5年前に、現在滿鐵の總裁をして居られます當時副總裁をして居られました大村さんが司會をされまして滿洲の輸送関係及び滿洲の石炭関係の方を皆呼ばれまして協議を致したことがあるのであります。勿論、私等も末席を汚した譯であります。その時は大體に於て昭和で170萬トンの施設をやることは差支へない、石炭及び輸送に關しては何等心配はないといふ結論に達した譯であります。それで大急ぎ設備を致したのであります。その後時局の變りました爲に、非常に各所に思はざる需用が現はれまして、その時の豫想から致しますと、最近の出炭の状況は約1割餘の減産になつて居ります。しかしながらその他の需要が非常に増しました爲に、大きい需要者であります製鐵業者の消費がより以上不如意となる譯であります。しかも石炭は非常に多量の採掘を要請された結果炭質が非常に落ちて來た譯であります。その協議の時には輸送の関係上洗炭を山元でやるといふことでありましたが、それも資材の関係で充分に設備が出来ぬといふやうな状態でありまして、その爲に今日からいふ慘憺たる目に遭つて居る譯であります。

然らば將來はやはりこの通りでゆくかと申しますと、決してさうではありませぬので、滿洲國の方では萬事を盡して増産に邁進して居る譯であります。しかも各山に對しましては夫々洗炭設備に對しても萬全を期する爲に邁進して居るのであります。こゝ暫らく致しましたならば皆様の御期待に副ふことが出来るだらうと固く信ずる次第であります。滿洲には御承知の通り、鐵礦は豊富にあります。石炭も豊富にございますが、不幸にして滿洲の鐵礦が貧乏であると、同様に、滿洲の石炭もやはり貧乏であります。撫順の石炭を除きますと、他の石炭は大抵灰分が30乃至35%といふ譯であります。どうしてもそれを洗炭しなければ製鐵用炭にはならぬのであります。今申しましたやうに、洗炭を充分致しますれば、量は非常に澤山ありますので、近く皆様の御期待に副ふことが出来るだらうと思つて吾々は努力してゐる次第であります。勿論石炭の採掘に従事しております各位も非常に努力して居ります。内地で御困難であるといふことは吾々は充分承知してやつてゐる次第でありますから吾々の意のある所を充分御了承下さつて直接間接に充分御指導と御鞭撻を御願ひしたい次第であります。(拍手)

渡邊會長 次は井上禮之助さんに御願ひ致します。

井上禮之助君(評議員) 私もやはり會費を出した方で、しかも違つた方面の者でありますから安心して居つたのであります。私は別に何も申上げることはない。今日の總會で渡邊會長がアメリカ、ドイツ其他の國の鐵鋼の産額を御話になりました。それで思ひ出しますのは、この前のヨーロッパの大戦の時に、同盟、聯合、双方でどの位鐵、石炭、石油を使つたかといふことを思ひ出したのであります。戦時中双方とも毎年鋼を1,500萬から2,000萬、石炭を2億5,000萬から3億、石油を1,500萬石から2,000萬石使つて居る。私はその當時、東洋であんな大きな戦争が起るかどうかわからぬが、若し起つたらその時に日本はどうするかといふことをその時に懸念致しまして、或は書いたり話をしたりして注意を促したことがあります。

今や我日本は支那で戦争をして居り東洋の風雲は急である。私は製鐵のことは何も存じませぬ。從來より製鐵原料に就ては常に懸念して居つた。今日は隠居でありますから殆ど世の中のことは存じませぬ。私が記憶して居りますのは、本鐵鋼協會創立時代、それからつと、何年かまでは製鐵原料に就ての講演も研究もあつたのであります。ところが近年は製鐵原料の問題は殆ど私は聞かないのであります。又本日の講演にもない。故に私は講演會には出席しないで總會にのみ出席したのであります。私の問題は兎に角と致しまして製鐵原料の問題はいゝのだ、鐵礦はいゝ、石炭はいゝ、又その他の色々な原料はいゝのだ、充分だといふことであれば實に結構であります。鐵は申す迄もなく總ての金屬産出額中95%以上を占め他の金屬と比較にならない程の大量を要するので他の金屬を以て代へることの出来ないものである。隨て其原料が大量に上ることは勿論であります。私は此原料の問題を懸念して居る者であります。それは井上の杞憂であり原料は充分であり懸念に及ばぬとのことであれば誠に喜ばしい次第であります。若し多少でも懸念するものがあるならば今の内に本會で他の研究會と同様に之が研究會を御設けになることは一つの案ではないかと考へるのであります。御指名がありましたので、前々から感じて居ります一端を申し上げまして私の御挨拶と致します。(拍手)

渡邊會長 次は關西支部を代表されまして川上博士に一つ御願ひ致します。

川上義弘君(評議員) 只今御指名によりまして、關西支部長と致しまして極く簡単に會長初め本部の役員に御祝辭を申し上げます。次に關西支部の現況、最後に御願ひを申述べたいと存じます。

凡そ集合團體の盛衰如何は、その長の元氣澄澗たることと犠牲的精神によつて非常に成績が上るといふことを信じて居ります。昔の言葉で申しますと、勇將の下に弱卒なし、これは古今を通じて明かでありまして、例へばヒツトラーを例にとりまして今日非常に成績をあげてゐる譯であります。そこで、昨年の秋に神戸で大會がありました。その時に渡邊會長がテーブルスピーチで頗る元氣旺盛に御話をなさいました。翌日俵先生が頗りと渡邊會長をひやかして居りました。昨晩は素的もない元氣だつた。又若い者も、會長さんの演説は近頃になく非常に元氣があつた。末頼もしい……末ぢやありませぬけれども(笑聲)頗る頼もしい。といふやうな御話を伺つたのであります。私は、前夜のことでありますから、さうであつたかなと思ふくらゐのことではありましたが、本日は現實にその元氣旺盛な所を拜見致しました。たゞ數年前と比べますと白髪は少し多くなつたやうでございまして、これは共自髮といふこともございまして、大變御目出度いことと思つて居ります。昨日は午前9時

から、夜は9時近くまで、本日は又朝から只今まで、又明日も明後日も左様と思ひますが、私この頃初めて知つたのでございますが、社長といふものは非常に多忙のものでとても苦勞されて居る。又仕事も多いのでございます。その社長の位置にある會長が連日犠牲を拂はれてこの會の爲に盡されて居る。又、先程申しました通り、勇將の下に弱卒なしといふ譯で、つまり普通の兵隊でも非常に強くなるといふやうな意味でございまして、副會長初め本部役員各位は何れも元氣旺盛で、又非常に立派な御方の集まりでございまして、この會の隆盛は以て知るべしであります。私は昨日朝神戸から参りまして、午後5時までは平爐の研究會、又5時以後は電氣爐の研究會に出席しましたが、その問題は如何にも現時に即して居りまして、又委員諸君の所論が適切、もう朝から全く時間の経つのを知らずに感激して列席して居つた次第であります。又本日の講演を拜聴致しましても、皆權威ある結果を發表せられて、又明日も同様と存じます。會長が斯くも元氣で犠牲的に御働きになり、又役員各位が立派な御方ばかりでありますから、この方々が御揃ひで協會の爲に盡すならば協會の成績の優良なることは申すに及ばず。又國家の爲に非常に貢献することと思ひますので、この點會長初め本部の役員各位に對し感謝と御祝ひを申述べた次第でございまして。

次に、關西支部の現況につきましては、神戸の大會の時に前會長齋藤先生から、先づ會員の数が渡邊會長の言ふ通りであれば、關西支部は昨年の中に斯くあるべしと云はれたその數字に最早到達を致しましたので非常に喜んでゐる次第でございまして。又事業と致しましては、前支部長の荒木さんが頗る積極的に、又立派な御方でありましたので私はその後を承けましたが、土臺が堅固に出来て居りますのと役員各位の御熱心なる御後援に因りまして仕事が頗るやりよいのでございます。それに鐵鋼界の關西の大御所たる齋藤先生から支部事業について何時も御指導と御後援を戴いて居る關係上、相當の成績をあげて居りますことを御報告致します。事業と致しましては大體講演會、工場見學等でありまして、最近總會の席上では齋藤先生の頗る有益な御講演を伺へたのでございまして、何れも盛會でありまして、頗る喜んでゐる次第でございまして。その外に、近頃平爐にとりまして石炭の良いものがない、又原料を貰ふに苦しんでゐる、耐火爐材で苦しんでゐるといふ關係上、關西の平爐の技術者が集まりまして研究會をやりたいといふ希望がございまして、本部の御承認を得ましてその研究會の催しをもこれから支部の仕事とすることになると思ふのでございまして。先づこれが關西支部の現況でございまして。

最後に御願ひが御座いますのは、關西に於きまして工場見學は、これは所在の工場でなければ見學は出来ないのでございまして。然るに時局柄段々と工場が殖えて居りますので先づ工場見學には今の所は差支ございませぬが、次に講演でございまして、只今申しました通り、齋藤先生などにも御無理を願つて居る譯で、廻り持ちでやつて居りますが、本日こちらで色々講演を伺ひますと頗る有益な御講演もあります。又時局柄只今梅根さんの云はれたやうな御話は紙上では伺へませぬので、どうかさういふ有益な御話がございましたならば本部の方から御差遣を願ひます。又平爐の技術研究會等に於きましてはそれに應ずる同業の權威者を御差遣を願ひまして完全を期したいと思ふのであります。

甚だ急ぎまして意味が通じない所があつたかも知れませぬが、これを以て御指名の責任を果したいと思ひます。(拍手)

渡邊會長 關西支部長から大變な頌徳表を奉られて、本部も餘程

一生懸命やりませぬと、あゝいふどうも優勢な支部長さんがおいでになるのでありますから、どうも顔負けも力負けも致します。吾々本部の者も一生懸命やります。就きましては、前會長各位を代表致されて河村さんに結びを御願ひ致したいと思ひます。

河村驥君(前會長) 私はいつも晩餐會の席上では前會長の中で一番年が若いと云ふので若い者役として御指名を受けて居りますが今夕は最早大分時間も過ぎて居りますので御免を蒙りたいと思ひましたが折角の御指名でありますので簡単に私の近頃の感想を述べて見たいと思ひます。

我國の製鐵事業は過去に於きましては既に前世界大戰當時鐵鋼の輸入が杜絶し其不足の爲めには誠に苦しい經驗を経て居るのであります。吾々は鐵鋼協會創立以來先輩たる野呂博士や香村博士と共に十數年前より本邦の製鐵事業は萬難を排して鐵鋼一貫作業の確立に邁進しなければならぬと云ふ事を度々強調し來つたのであります。然るに充分其實行が伴はずして今日に至りまして俄に米國よりの廢鐵の輸入が杜絶して多大の打撃を受けて居るといふ現状でありまして、この際非常な覺悟を以て奮勵努力萬難を排してこの難關を突破致さなければならぬ場合に立ち至つて居るのであります。而して今後の世界の狀勢の變轉は如何になり行くか、又この戰時狀態が何年續くか眞に測り難いものがありますが三國同盟を繞る國際の變化は恐らく將來世界が四つのブロックに分れる事は想像に難くないのであります。又この事は一般に信ぜられて居る所であります。その四つのブロックとは申す迄もなく第一に獨逸を樞軸とする歐洲のブロック、その二は米國を盟主とする南北米國ブロック、その第三は歐亞を連ねるソビエツトブロック、第四は日本を盟主とする處の東亞ブロックであります。

諸てこの各ブロックに於ける鋼の1ヶ年の生産可能量を概観致しますと、これは今日總會の席上で渡邊會長からも詳細の數字を擧げて御話しがございましたが吾々の見る處では歐洲ブロックに於てはドイツ、ベルギー、ルクセンブルグ、フランス、ポーランド、チエツコスロバキヤ、イタリー、スウェーデン、オランダ並にやがて敗退するであらう所の英國の産額を併せまして1箇年約5,000萬tを超えるものと考へるのであります。次に米國ブロックの産額は7,000萬t内外で又ソビエツト、ブロックは將來約2,300萬tを標準として之に達する様努力して居る様であります。鐵鋼業が諸工業の基礎工業であり、特に國防力を左右する重大因子である點から申しまして他の三つのブロックに比しますと我國の鐵鋼業の現状は決して樂觀を許さない。否寧ろまことに寒心に堪えざる次第でありまして、苟も鐵鋼業に關係するものゝ齊しく大に覺醒を要する點であります。これが對策に付きましては勿論政府當局者並に同業者團體に於ても種々考慮をめぐらされて居るであります。要するに先程御話がありました通り鐵鋼資源の開發は勿論製鐵原料炭の増産に鐵鋼一貫作業其他之に附帶する諸設備の充實に鋼特に高級特殊鋼の増産に、又製鐵鋼技術の進歩發達に凡ゆる努力を拂つて國策に順應して時難克復の精神昂揚と之が實行を期せねばならぬと信ずる次第であります。

我が鐵鋼協會は本邦製鐵事業の振興機關として多年製鐵鋼技術の進歩發達に努力し來つたのであります。將來益々會員一同結束を固くして一路國策確立の支援に寄與する所がなければなりません。かく考へる時、時局に對する本會の使命も亦重大であると申す可きであります。長くも明治天皇の御製にも

敷島の大和心の雄々しきは

事ある時にあらはれにける。

又 國民の力の限り盡すこそ

わが日の本のかためなりけり。

と仰せられて居ります。これはたゞ獨り軍人丈の心構であつてはな
りませぬ、所謂艱難汝を玉にすで、吾々は尤いに勇猛心を奮ひ起し
てこの難關を突破し禍を轉じて福となし前途の光明を招來する事を
期待致さなければなりませぬ。

細い事は避けまして私の感想の大略を申し述べまして折角の御指
名に對し責を塞ぐことゝ致します。(拍手)

渡邊會長 河村さんから今御希望の若い者の御話しはこれから聞
けますが、御年寄は何れにしても先へ行きます。機會がある毎に聽
く方が若い者の指導にもなると思ひまして御話しを願つたのであり
ます。

尙色々承ることがあらうと思ひますが、又明日も相當に承らなけ
ればなりませぬので、遺憾ながらこれを以てこの會を閉ぢることに
致します。まことに御忙がしい所をながながと御列席下さいまして
有難うございました。厚く御禮を申し上げます。(拍手)

理事會記事 (自昭和15年8月1日
至昭和16年4月30日)

○理事會(昭和15年度第6回)

日時 昭和15年9月4日(水)午後5時開會午後8時閉會

出席者 理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市

鹽澤正一 山田良之助

前會長 俵 國一 河村 曉

監事 堤 正義 松下 長久

常務委員 池田 正二 石原 善雄 三島 徳七

網谷 俊平

主事 金谷 三松

協議事項

- 1. 第24回講演大會晚餐會招待者決定
- 2. 9月講演會の決定(第336頁参照)
- 3. 11月8日及び9日兩日に互り製銑製鋼熱效率研究會を下記の通り實施の件決定

會場 帝國鐵道協會々館

第1日 (1) 開會の辭並に委員長挨拶

(2) 講演、塵埃量測定に就て

日鐵八幡製鐵所技師 末藤作次君

(3) 塵埃測定量に就て討議

(4) 熱風爐の熱效率に就て

(5) 熱效率決定に就ての測定方法の討議

(6) 耐火煉瓦に就て質疑應答(田所博士)

(7) 挨拶閉會

第2日 (1) 挨拶

(2) 平爐蓄熱室の熱效率に就て

(3) 熱效率測定方法に就ての討議

(4) 講演、ラテックス煉瓦に就て 日鐵八幡製鐵所

理事 理學博士 田所芳秋君

(5) 挨拶、閉會

4. 12月5日、6日、7日の3日間學振第19小委員會と聯合
熔鋼溫度測定講習會開催の件決定

5. 昭和15年6、7月分收支決算

6. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和15年7月31日現在)

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者數	—	—	—	9	27	36
退會者數	—	—	—	3	9	9
死亡者數	—	—	—	4	—	4
轉格者數	—	—	—	—	—	—
復活者數	—	—	—	1	—	1
現在會員數	14	55	22	2,132	1,758	3,981
前報對増減				+3	+21	+24

報告事項

1. 電氣製鋼研究會小委員會

第1小委員會(第16次) 昭和15年7月10日自午後1時至午後
7時30分 本會事務所

第2小委員會(第8次) 昭和15年7月6日自午後1時30分
至午後7時30分 本會事務所

第4小委員會(第2次) 昭和15年7月17日自午後5時至午
後8時 本會事務所

2. 鋼鑄物研究會

第1回幹事會 昭和15年8月6日自午後5時至午
後9時30分 本會事務所

議事、研究方針、研究事項の決定、研究報告の取纏め方法

3. 昭和15年度第4回講演會(第336頁参照)

4. 野田文庫購買圖書

和書、(1) 鈴木益廣著 熔接バイト 附高速度鋼の熱處理

洋書、(1) Hanemann und Schrader. Atlas Metallographicus. Band II. Lieferung 5, 6, 7, 8.

(2) Genders-Bailey. Das Giessen von Messingblöcken.

(3) Prof. Dr. E. Schiebold. Spannungsmessung an Werkstücken; Ergebnisse der Technischen Röntgenkunde. Band 6.

(4) Prof. Dr. Otto Kröhnke, Prof. Dr. Georg Masing. Der Korrosionsschutz metallischer Werkstoffe und ihrer Legierungen Die Korrosion metallischer Werkstoffe. Band 3.

(5) Dr. Ing. Fritz Braner. Arbeitsschutz in der Eisen- und Metallindustrie.

(6) Heinrich Cornelius. Kupfer im technischen Eisen

(7) Dr. Wolfgang Seith. Diffusion in Metallen.

(8) American Society for Metals. Metals Handbook.

(9) D. Gustav Wilde und E. Daub. Über die Änderung der Kokseigenschaften durch Macherhitzung auf hohe Temperaturen.

(10) Dr. Ing. H. Kayseler und Dr. Ing. W. Püngel. Die Prüfung von Tiefziehwerkstoffen durch das Keilzug-Tiefungsverfahren.

5. 關西支部第8回商議員會並に幹事會

日時 昭和15年8月9日(金) 午後6時

場所

出席者 井上 順三 川上 義弘 川端 駿吾 楠瀬 四郎

齋藤 大吉 多賀谷正義 廣瀬 亞夫 室井嘉治馬

吉弘 良夫 岩城 靜(松本君代理)

(1) 幹事會議事

荒木支部長辭任に伴ふ後任支部長選舉の件
川上義弘君に決定

(2) 商議員議事

荒木氏辭任に伴ふ幹事補缺の件
楠瀬四郎君に決定

9 月例會の件

堺市内の工場見学(9 月 21 日午後 2 時より 5 時の豫定)

○理事會(昭和 15 年度第 7 回)

日時 昭和 15 年 10 月 7 日(月) 午後 5 時開會午後 8 時閉會

出席者 理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市
石田 四郎 鹽澤 正一

前會長 河村 駿 水谷 叔彦

監事 堤 正義

常務委員 石原 善雄 主事 金谷 三松

協 議 事 項

- 1. 昭和 15 年度第 6 回講演會決定(第 336 頁記事参照)
- 2. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和 15 年 9 月 30 日現在)

	名譽 會員	維持 會員	贊助 會員	正會員	准會員	計
入 會 者 數	—	1	—	13	47	61
退 會 者 數	—	—	—	1	2	3
死 亡 者 數	1	—	—	1	2	4
現在會員總數	13	57	22	2,149	1,829	4,069
前報對增減	-1	+1	—	+11	+43	+54

報 告 事 項

1. 電氣製鋼研究會小委員會

第 1 小委員會(第 17 次) 昭和 15 年 9 月 18 日
自午前 9 時 30 分至午後 4 時 本會事務所

" (第 18 次) 昭和 15 年 10 月 30 日
自午前 9 時 30 分至午後 5 時 30 分 "

第 2 小委員會(第 9 次) 昭和 15 年 9 月 21 日
自午後 1 時 30 分至午後 7 時 "

2. 昭和 15 年度第 5 回講演會 (第 336 頁参照)

3. 野田文庫購買圖書

- 洋書 (1) A. E. Van Arkel, Reine Metalle
- (2) Torkel Berglund, Handbuch der metallographischen Schleif-, Polier- und Ätzverfahren
- (3) Kinzel & Franks, Alloys of Iron and Chromium, Vol. II. High chromium alloys.
- (4) W. Klose, Die Praxis der Herstellung von Metallmodellen und Modelleinrichtungen
- (5) The Iron and Steel Institute, Ninth Report on the Heterogeneity of Steel Ingots
- (6) Herrmann-Zurbrugg, Die Bearbeitung des Aluminiums

○理事會(昭和 15 年度第 8 回)

日時 昭和 15 年 11 月 6 日(水) 午後 5 時開會午後 7 時 30 分閉會

出席者 理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市
田中 清治 鹽澤 正一

前會長 河村 駿 水谷 叔彦 齋藤 大吉

監 事 堤 正義

常務委員 石原 善雄 志村 繁隆 網谷 俊平
三島 徳七

主 事 金谷 三松

協 議 事 項

- 1. 日本學術振興會, 日本鐵鋼協會聯合主催熔鋼溫度測定法講習會實行案決定

熔鋼溫度測定法講習會實施次第摘要

○會場(講義) 東京府商工獎勵館(12 月 5 日、6 日兩日施行)

- (實驗) 1. 12 月 7 日商工省中央度量衡檢定所
- 2. 12 月 9 日日本鋼管株式會社川崎工場

○講義 12 月 5 日午前 9 時開始

挨拶 日本鐵鋼協會々長 工學博士 渡邊 三郎君

- (1) 溫度測定法と實際作業との關係
日本學術振興會第 19 小委員會委員長
東京帝國大學名譽教授 工學博士 俵 國一君
- (2) 高溫度目盛の基本に就て

商工省中央度量衡檢定所技師
理學士 天野 清君

- (3) 熱電對(白金及びベースメタル)に就て
北辰電機製作所技師 理學士 森 武保君

- (4) 光高溫計の研究に就て
富士電機株式會社技師 工學士 村上 俊男君
12 月 6 日午前 9 時開始

- (1) 光高溫計に依る溫度測定及び補正方法に就て
商工省中央度量衡檢定所技師
理學士 天野 清君

- (2) 標準ランプに就て
東京芝浦電氣株式會社技師
理學士 田治米亮造君

- (3) 熱電高溫計(熔鋼溫度)に就て
住友金屬工業株式會社鋼管製造所技師
理學士 菅野 猛君

- (4) 計器の取扱ひに就て
横河電機株式會社技師 西川 甚太君

○實 驗

- (1) 光高溫計の使用法及び補正法(12 月 7 日商工省中央度量衡檢定所に於て)
一班の人員を 15 名に限り, 第 1 班より第 4 班まで各 1 時間の實習
- (2) 實地製鋼所に於ける測熱實驗(12 月 9 日日本鋼管株式會社川崎工場に於て)

○陳列(12 月 5 日、6 日兩日自午前 8 時 30 分至午後 4 時 30 分)

- 東京府商工獎勵館) 各種高溫計及び補正裝置, 型錄等展覽
- 2. 第 26 回通常總會, 第 25 回講演大會實行案作成
- 3. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和 15 年 10 月 31 日現在)

	名譽 會員	維持 會員	贊助 會員	正會員	准會員	計
入 會 者	—	—	1	20	51	72
退 會 者	—	—	—	2	—	2
現在會員	13	57	23	2,164	1,880	4,137
前報對增減	—	—	+1	+18	+51	+70

報 告 事 項

1. 第 21 回 研究部會, 第 12 回 製鋼部會 電氣製鋼研究會(第 3 次)
 日 時 昭和 15 年 10 月 16 日(水) 午前 10 時開會午後 3 時
 45 分閉會
 場 所 神戸市海岸通 神戸商工會議所
 出席者 協會役員及び委員 49 名, 實行委員同補助者 17 名, 傍
 聽者 5 名 合計 71 名

議 事 次 第

午前 10 時 會長挨拶, 委員長報告
 10 時 15 分 第 1 小委員會幹事報告(電氣爐の標準, 煉瓦の
 規格)
 11 時 23 分 第 2 小委員會幹事報告(製鋼用原料)
 午後 1 時 35 分 第 3 小委員會幹事報告(製鋼計畫)
 2 時 15 分 第 4 小委員會幹事報告(電力, 調査, 統計)
 [研究會報告書は會員に實費豫約配頒の豫定を以て印刷準
 備中]

2. 野田文庫購買圖書

和書 (1). 藤井 寛著 製鐵及び製鋼法
 (2). 鐵鋼報國會編 鐵鋼總覽

○理事會(昭和 15 年度第 9 回)

日 時 昭和 15 年 12 月 4 日(水) 午後 5 時開會午後 8 時閉會
 出席者 理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市
 石田 四郎 田中 清治 鹽澤 正一
 前會長 依 國 一 河村 驥 水谷 叔彦
 監事 堤 正義
 常務委員 池田 正二 志村 繁隆 主事 金谷 三松

協 議 事 項

- 大日本製鐵協會耐火物特別委員會と電氣製鋼珪石煉瓦規格案
 作成に關し, 聯合懇談會を開催の件を議し協會よりは役員及び電氣
 製鋼第 1, 第 3 小委員會の委員之に参加出席することに決定せり。
- 第 26 回 通常總會の機を利用し 4 月 1 日に第 13 回 製鋼部
 會を開催し晝間は製鋼用原料(平爐)研究會(第 1 次)夜間は電氣製鋼
 研究會(第 4 次)に充つことと決定。
- 第 24 回 講演大會(神戸)の際實施せられたる電氣製鋼(第 3
 次)の研究報告(I)は單行本とし豫約出版のことに決定。
- 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和 15 年 11 月 30 日現在)

	名譽 會員	維持 會員	贊助 會員	正會員	准會員	計
入 會 者	—	—	1	23	39	63
轉 格 者	—	—	—	+ 2	- 2	—
退 會 者	—	—	—	3	5	8
死 亡 者	—	—	—	3	—	3
現 在 會 員	13	57	24	2,183	1,912	4,189
前 報 對 増 減	—	—	+ 1	+ 19	+ 32	+ 52

報 告 事 項

1. 第 22 回 研究部會第 4 回 燃料經濟部會
 製鐵製鋼熱效率研究會

(1) 日 時 昭和 15 年 11 月 8 日
 自午前 9 時 至午後 4 時
 昭和 15 年 11 月 9 日
 自午前 9 時 至午後 0 時 30 分

(2) 場 所 帝國鐵道協會々館

(3) 出席者

	協會役員 及び委員	各會社代表委員及 び協會推薦委員	講演者	計
11 月 8 日	12 名	36 名(外に傍聽者 4 名)	2 名	54 名
11 月 9 日	11 名	39 名(外に傍聽者 5 名)	2 名	57 名
合 計				111 名

(4) 講 演

イ 塵埃量測定に就て 日本製鐵株式會社技師 末藤 作次君
 ロ ラデックス煉瓦に就て 同上 理事 田所 芳秋君

(5) 討 議 事 項

塵埃量測定に就て, 熱風爐の熱效率に就て, 熱效率決定に就て
 の測定方法, 耐火煉瓦に就て質疑應答, 平爐蓄熱室の熱效率に
 就て, 熱效率測定の方法に就て, 平爐用耐火煉瓦に就て質疑應
 答。

2. 電氣製鋼研究會小委員會

第 1 小委員會(第 19 次) 昭和 15 年 11 月 18 日(月)

自午前 9 時 30 分 至午後 3 時 30 分 本會事務所

第 2 小委員會(第 10 次) 昭和 15 年 11 月 30 日(土)

自午後 1 時 30 分 至午後 7 時 本會事務所

第 3 小委員會(第 6 次) 昭和 15 年 11 月 26 日(火)

自午前 10 時 至午後 7 時 本會事務所

3. 鋼鑄物研究會

日本鋼管株式會社電氣製鐵所より 11 月 8 日附を以て次記の通り
 派出委員を變更の旨通知ありたり。

前委員 技師 笹 部 誠君 交代委員 技手 樋上 賀一君

4. 昭和 15 年度第 6 回講演會(第 336 頁參照)

5. 關西支部

(1) 第 10 回 商議會員會

日 時 昭和 15 年 11 月 16 日(土) 自午後 5 時 30 分

場 所 京都帝國大學々友會館

出席者

齋藤 大吉 川上 義弘 室井嘉治馬 澤村 宏
 楠瀬 四郎 多賀谷正義

議 事

イ 次回例會の件

ロ 製鋼研究部會或は懇談會等開催の可否の決定は次回 12 月
 18 日(水)に再開決議のこととなれり。

(2) 第 9 回 例會

日 時 昭和 15 年 11 月 16 日(土)

自午後 1 時 至午後 4 時 30 分

見學會 二條離宮拜觀 參加者 27 名

(自午後 1 時 至午後 2 時 30 分)

講演會

現下の石炭石油問題 京大教授 工學博士 小田川達郎君

出席者 60 名(自午後 3 時 至午後 4 時 30 分)

○理事會(昭和 15 年度第 10 回)

日 時 昭和 16 年 1 月 8 日(水)

午後 5 時開會 午後 8 時閉會

出席者

理 事 渡邊 三郎 井村 竹市 石田 四郎 鹽澤 正一
 前會長 依 國 一 河村 驥

監事 松下 長久 堤 正義
常務委員 池田 正二 石原 善雄 三島 徳七
主事 金谷 三松

協議事項

- 1. 服部博士記念資金委員會並に評議員會を2月25日開催の件決定
2. 昭和15年度第7回講演會(第336頁参照)
3. 關西支部より次記の件に就き本部の承認を求め來りし件承認及び決定

- (1) 製鋼研究會を開催の件
(2) 昭和15年度決算並に昭和16年度豫算
(3) 商議員20名を30名に、幹事12名を15名に増加の件
(4) 昭和16年度交附金を960圓と決定
4. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和15年12月31日現在)

Table with 7 columns: 名譽會員, 維持會員, 贊助會員, 正會員, 准會員, 計. Rows include 入會者, 轉格者, 退會者, 死亡者, 現在會員, 前報對増減.

報告事項

- 1. 電氣製鋼研究會小委員會
(1) 第1小委員會(第20次)昭和15年12月18日(水)
自午後1時 至午後6時30分 大阪堂島中央電氣俱樂部

○理事會(昭和15年度第11回)

日時 昭和16年2月12日(水)
午後5時開會 午後8時閉會

出席者

理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 石田 四郎 田中 清治
前會長 俵 國一 河村 颯 水谷 叔彦
監事 堤 正義
常務委員 池田 正二 志村 繁隆
主事 金谷 三松

- 1. 香村賞, 渡邊賞, 俵賞の各受賞者豫選
2. 工學工業年報編纂委員(任期2年)滿了に付き交代者を詮議のところで理事石田四郎君に更に一期間依囑することに決定
3. 昭和15年度第8回講演會(第336頁参照)
4. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表(昭和16年1月31日現在)

Table with 7 columns: 名譽會員, 維持會員, 贊助會員, 正會員, 准會員, 計. Rows include 入會者, 轉格者, 退會者, 死亡者, 現在會員, 前報對増減.

- 5. 收支決算豫算審査(第338, 342頁参照)

報告事項

- 1. 電氣製鋼研究會小委員會
(1) 第1小委員會(第21次)昭和16年1月17日(金)
自午前9時30分 至午後4時30分 本會事務所

- (2) 第2小委員會(第11次)昭和16年1月14日(火)
自午後2時 至午後6時 本會事務所

- (3) 第3小委員會(第7次) 昭和16年2月5日(水)
自午前10時 至午後8時 本會事務所

- 2. 大日本窯業協會耐火物特別委員會及び日本鐵鋼協會電氣製鋼研究會第1, 第3小委員會聯合座談會

日時 昭和16年1月16日
自午後1時30分 至午後5時30分

場所 有樂町 電氣俱樂部

出席者

(鐵鋼協會側)

神谷 基夫 牛尾 眞三 吉村 英文 田宮 利彦
藪内周三郎 大澤 隆三 神邊 武雄代 小野左右吉
小島 豊榮 田村 勝人 野崎 榮 千柄 實勇
里井孝三郎 菅田 角夫 加藤 修 野田 浩
金谷 三松

(窯業協會側)

黒田 泰造 永井彰一郎 山内 俊吉 青木 熊雄
浮洲 武彦 田所 芳秋 河内 通 若林 滋
河合 幸三 高良 淳 不破 橘三 高田 安雄
藤田新三郎 中村 能一代 吉木 文平 三田 正揚
宮澤 清 池ノ上 典 磯部 好治 寺川 彪

- 3. 電氣製鋼研究會委員異動

(1) 第2小委員會

(解囑) 荒川 直三君 (昭和16-1-13)
楠 正允君 (昭和15-12-17)
林 猖之介君 (昭和15-12-17)
(委囑) 川上 義弘君 (昭和15-12-21)
淺野 輝君 (昭和15-12-26)
井門 文三君 (昭和15-12-24)
垣内富士雄君 (昭和15-12-28)
藤村 哲之君 (昭和16-1-13)

(2) 第3小委員會

(解囑) 大立 廉君 (昭和15-12-17)
小塚 壽吉君 (昭和16-1-13)
(委囑) 高橋 隆君 (昭和16-1-13)

(3) 第4小委員會

(解囑) 和田 懿君 (昭和15-12-17)
(委囑) 正親 見一君 (昭和15-12-17)

- 4. 昭和15年度第7回講演會(第336頁参照)

5. 野田文庫購入圖書

- 洋書 (1) Niezoldi, Ausgewählte chemischen Untersuchungsmethoden für die Stahl-und Eisenindustrie
(2) Schutz, Die Betriebspraxis der Eisen-Stahl-und Metallgiesserei, Heft 23
(3) Damerow, Hilfsbuch für die praktische Werkstoffabnahme in der Metallindustrie
(4) Franz Halla, Kristallchemie und Kristallogphysik metallischer Werkstoffe,

○理事會(昭和16年度第1回)

日時 昭和16年3月7日(金)

午後6時30分開會 午後7時30分開會

出席者

理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 石田 四郎 田中 清治
 鹽澤 正一
 前會長 俵 國一 河村 颯
 監事 堤 正義
 常務委員 池田 正二 石原 善雄 網谷 俊平
 主事 金谷 三松

協議事項

1. トリペ用耐火物に關し大日本窯業協會と共同委員會開催のことに決定

委員(窯業協會側)

若林 滋君 高田 安雄君 笹井熊之助君

(鐵鋼協會側)

井村 竹市君 松下 長久君 石原 善雄君

- 2. 昭和15年度第8回講演會(第336頁参照)
- 3. 春季大會見學次第書及び晚餐會招待者決定
- 4. 昭和15年度收支決算審査(第378頁参照)
- 5. 昭和16年度收支豫算審査(第342頁参照)
- 6. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表 (昭和16年2月28日現在)

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	1	1	—	7	45	54
轉格者	+1	—	—	-1	—	—
退會者	—	1	—	2	1	4
死亡者	—	—	—	-2	—	-2
現在會員數	14	56	24	2,246	2,077	4,417
前報對增減	+2	-1	0	+24	+49	+74
[前年2月末對增減	0	+7	+3	+159	+524	+693]

報告事項

1. 電氣製鋼研究會

- (1) 第1小委員會(第22次) 昭和16年2月17日(月)
自午前9時 至午後5時30分 本會事務所
- (2) 第2小委員會(第12次) 昭和16年2月18日(火)
自午後2時 至午後6時 本會事務所
- (3) 第3小委員會(第8次) 昭和16年3月4日(火)
自午前11時 至午後7時 本會事務所
- (4) 第4小委員會(第3次) 昭和16年2月20日(木)
自午後5時 至午後8時40分 本會事務所
- (5) 第4小委員會(第4次) 昭和16年2月26日(水)
自午後5時 至午後9時15分 本會事務所

2. 自動車用鐵鋼材研究會及び日本機械學會材料部門委員會聯合座談會準備打合せ

日時 (第1回) 昭和16年2月18日
午後5時30分
(第2回) 昭和16年3月3日
午後1時30分
機械學會事務所

○理事會(昭和16年度第2回)

日時 昭和16年4月9日(水)
午後5時開會 午後7時30分開會

出席者

理事 渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市 田中 清治

鹽澤 正一

前會長 俵 國一 河村 颯
 監事 松下 長久
 常務委員 池田 正二 石原 善雄
 主事 金谷 三松

協議事項

- 1. 春季大會實施上改良を要する件
- 2. 第26回講演大會に關する大體打合
- 3. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表 (昭和16年3月31日現在)

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	1	1	—	7	45	54

報告事項

1. 電氣製鋼研究會小委員會

- (1) 第1小委員會(第23次) 昭和16年3月17日(月)
自午前9時 至午後3時 本會事務所
- (2) 第4小委員會(第5次) 昭和16年3月5日(水)
自午後1時30分 至午後9時30分 本會事務所

2. 昭和16年度第1回講演會

日時 昭和16年3月24日(月)
自午後6時30分 至午後9時20分

場所 丸ノ内帝國鐵道協會館

講演 金屬の可塑性變形(講演時間1時間10分)

東京帝國大學工學部助教授

工學博士 理學士 谷 安正君

映畫 (1) 理研科學映畫の文化映畫 7卷 (映寫時間)
(2) 我海軍々事映畫 2卷 (1時間30分)

入場者 130名

3. 第23回研究部會第13回製鋼部會

日本鐵鋼協會第23回研究部會第13回製鋼部會

○第1回製鋼用原料(平爐)研究會

日時 昭和16年4月1日(火)
午前9時開會 午後4時30分終了

場所 帝國鐵道協會館

議題 1. 冷銑鑄石法 2. 熔銑鑄石法 3. 平爐用製鋼原鐵研究原案として配布したる書類

a) 單獨平爐による冷銑鑄石法試驗作業報告
(於富士製鋼所) 日本製鐵株式會社技術部

b) 製鋼用原料(平爐)研究會(第1回)參考資料
日本製鐵株式會社八幡製鐵所

c) 屑鐵代用品の利用に關する研究調査 吳海軍工廠製鋼部

d) 熔銑鑄石法統計表
製鋼用原鐵 (I)
熔銑鑄石法 (II)
熔銑鑄石法 (III)
5% 屑鐵操業試驗報告 (第1次)
昭和製鋼所

熔銑鑄石法 (IV)
" " (第2次)

e) 川崎重工業株式會社製鐵工場實驗成績表 川崎製鐵工場

f) 住友金屬工業株式會社製鋼所實驗成績表 住友製鋼所

出席者 (次第不順) 71名

委員長 鶴瀨 新五君

本會推薦委員

- 的場 幸雄君 (東北帝大) 井上 克巳君 (九州帝大)
- 藤井 寛君 (大阪帝大) 澤村 宏君 (京都帝大)
- 福島 政治君 (旅順工大) 松原武三郎君 (日鐵八幡)
- 川上 義弘君 (神戸製鋼) 宇留野四平君代 佐々川 清君 (吳工廠)
- 甲藤 新君 (日本製鋼) 久保田省三君代 梅根常三郎君 (昭和製鋼)

工場推薦委員

- 藤村 哲之君 (日鐵本社) 松倉由次郎君 (日鐵八幡)
- 武田 喜三君 (日鐵八幡) 蜂谷 茂雄君 (日鐵八幡)
- 三宅 貞信君 (日鐵八幡) 間 忠 誼君 (日鐵八幡)
- 篠原 楓雄君 (日鐵釜石) 田熊 龜三君 (日鐵兼二浦)
- 坂口 豊君 (日鐵大阪) 小城 五郎君 (日鐵富士)
- 宮原 信治君 (日鋼川崎) 瀧 澤 工 君 (日鋼川崎)
- 深堀 佐市君 (日鋼鶴見) 宮下 俊二君 (神戸製鋼)
- 栗田 滿義君 (住友製鋼) 小田 助男君 (住友鋼管)
- 山口 正君 (川崎製鐵) 小島 豊榮君 (川崎製鋼)
- 森崎 晟君代 片山 博君 (中山製鋼) 藪内周三郎君 (大阪造兵)
- 長井 盛君 (日本製鋼) 井上 豊君 (大島製鋼)
- 數納 勳郎君 (昭和製鋼) 堀 金太郎君 (昭和製鋼)
- 中村太四郎君 (三菱鋼材) 佐藤 政一君 (日本特殊鋼)
- 山田 貞雄君 (尼崎製鋼) 安藤 鐵夫君 (吾孺製鋼)
- 吉川 平喜君 (日鐵廣畑)

鐵鋼協會

- 神谷 基夫君 武井 武君 藤原 唯義君

研究會委員

- 今永仙太郎君 落合 勇君 岡 憲市君 日下和治君代理 龜岡 勇治君

- 淺野 輝君 茂木 吉治君

協會役員

- 渡邊 三郎君 吉川 晴十君 井村 竹市君 石田 四郎君
- 山田良之助君 俵 國一君 河村 曉君 水谷 叔彦君
- 齋藤 大吉君 松下 長久君 池田 正二君 石原 善雄君
- 網谷 俊平君 石川 薰君 石田 求君 銅金義一君代理 岡部 長衡君
- 横山 均次君 俵 信次君 山口 眞申君 前田 六郎君
- 志村清次郎君 齋藤 彌平君

○電氣製鋼研空會 (第4次)

日時 昭和16年4月1日(火) 自午後6時 至午後9時30分

場所 帝國鐵道協會々館

出席者 64名 (○印幹事)

委員長

- 川崎舍恒三君代 吉川 晴十君

委員長補佐

- 林 達夫君

第1小委員會委員

- 神谷 基夫君 ○野田 浩君 今泉 貫治君 堀切 政康君
- 加藤 修君 高田 安雄君 田宮 利彦君 吉村 英文君
- 牛尾 眞三君 寒川恒一郎君代 半谷 豊君

第2小委員會委員

- 武井 武君 ○藤原 唯義君 宇留野四平君代 落合 勇君 佐々川 清君

- 井上 克巳君 稻津 健介君 岡 憲市君代 日下和治君代 矢作 太郎君 龜岡 勇治君
- 藤村 哲之君 茂木 吉治君 川上 義弘君 淺野 輝君

第3小委員會委員

- 石原 善雄君 ○松山 寛慈君 石川 薰君 千柄 實勇君
- 大垣 梅雄君 大澤 隆三君 神邊 武雄君 田村 勝人君
- 野崎 榮君 藪内周三郎君 福留 富治君 高橋 隆君
- 荒木 彬君代 笹部 誠君 小島 豊榮君 宮内 弘平君

第4小委員會委員

- 吉川 晴十君 林田 恒雄君 銅金義一君代 正親 見一君 岡部 長衡君
- 俵 信次君 的場 幸雄君 藤井 寛君 網谷 俊平君
- 澤村 宏君 齋藤 彌平君 菊田多利男君 篠原 登君代 稅所 正芳君

協會役員

- 渡邊 三郎君 井村 竹市君 石田 四郎君 山田良之助君
- 俵 國一君 河村 曉君 水谷 叔彦君 齋藤 大吉君
- 松下 長久君 横山 均次君 山口 眞申君 前田 六郎君
- 志村清次郎君

議事 第3次研究會以後の調査研究事項

4. 第26回通常總會

出席者 會場出席者 64名 委任者 551名

投票數 616通 4月2日現在正會員數 2,328名

日時 昭和16年4月2日(水) 午前11時20分開會 午後0時25分閉會

場所 帝國鐵道協會々館

議事表彰式 (第332, 343頁參照)

評議員會記事 (自昭和15年7月26日 至昭和16年4月30日)

○評議員會(昭和15年度第2回)

日時 昭和15年7月26日(金) 午後4時5分開會 午後4時40分閉會

場所 丸ノ内帝國鐵道協會々館

- 出席者 評議員石原 善雄 石川 登喜治 池田 正二 金子 恭輔 齋藤 三三 日高 鏡一
- 理事渡邊 三郎 吉川 晴十 井村 竹市 鹽澤 正一 石田 四郎 山田 良之助
- 前會長河村 曉 水谷 叔彦 (監事松下 長久)
- 委任者 評議員 48名, 理事 1名, 前會長 3名 以上出席者會計 66名, (缺席者 27名)

評議事項

- (1) 全日本科學技術團體聯合會設立に付き本會の加盟及び代表委員選定の件
決議, 參加, 代表委員は會長及び副會長に依頼のこと。
- (2) 日本工學會より同會が全日本科學技術團體聯合會に加盟することに就き社員學會として本會の意見を求め來れりこれが回答の件
決議, 參加差支なし

○評議員會(昭和15年度第3回)

日時 昭和16年2月25日 午後5時10分開會 午後

8時30分閉會

場所 日本鐵鋼協會々議室

出席者 評議員石原善雄 尾藤加勢士 桂弁三
鵜瀨新五理事吉川晴十 田中清治 鹽澤正一
前會長河村颯 水谷叔彦

委任者 評議員 52名 理事 2名 前會長 2名

出席總計/評議員+理事+前會長 65名/91名

評議事項

(1) 昭和15年度收支決算の件(第337頁参照)承認

(2) 昭和16年度收支豫算の件(第342頁参照)承認

(3) 監事1名選舉の件

堤正義君任期滿了に付き新に水谷叔彦君就任

(4) 補缺評議員1名選舉の件

伊集院清彦君當選

(5) 改選評議員候補者30名及び新増加評議員候補者20名推薦の件(第343頁當選の通り)

(6) 次記兩君を定款第6條に據り本會名譽會員に推薦の件決定

日本製鐵株式會社々長 平生飢三郎君

日本鐵鋼協會前會長 前株式會社日本製鋼所社長 現顧問
海軍少將工學博士水谷叔彦君

(7) 香村博士寄贈資金規則第9條臨時適用の件次の如く承認

昭和16年2月25日本會評議員會は香村博士寄贈資金取扱規則第9條に依り次記二項は社團法人日本鐵鋼協會の目的達成上適切有效なるものと認め該當者の功勞に應じ賞牌又は賞金を授與することとし即日之を實施せり。

1. 本邦鐵鋼事業の擴充統制等の要務に従事し該事業の振

興發達に貢獻したるもの

1. 鐵鋼學術又は技術の發達を促進助長し又は鐵鋼品質の改善に貢獻したるもの

(8) 昭和15年度表彰者決定の件(第343頁の通り)

(9) 賞牌(金製)を當分の間アルマイト若くはアルミニウムの何れかに依ることとし之れに副賞(金一封)を添ふること(昭和16年4月受賞者より實施)

服部博士記念資金委員會記事

(自昭和15年8月1日
至昭和16年4月30日)

○服部博士記念資金委員會

(昭和15年度第1回)

日時 昭和16年2月25日 午後4時30分開會 午後
5時10分閉會

場所 日本鐵鋼協會々議室

出席者

幹事 吉川晴十 田中清治 鹽澤正一
委員 河村颯 水谷叔彦

議事 (1) 昭和15年度服部博士記念資金收支決算報告承認(第339頁参照)

(2) 昭和16年度服部博士記念資金收支豫算決定(第342頁参照)

(3) 第11回服部賞牌1名並に賞金受領者3名決定(第343頁参照)

(4) 服部賞牌をアルマイト若くはアルミニウム製とし別に副賞金一封を贈呈することに決定。

鐵鋼販賣價格廣範圍に改訂

公定價格を決定答申

鐵鋼の販賣價格については9・18停止令によつて停止價格が決定されたまゝ特殊鋼以外は何等改訂が加へられなかつたが、鐵鋼價格の不均衡是正が強く要望されつゝあるのに鑑み價格形成委員會でも考慮を拂つた結果、六日第22回金屬部會を商工省物價局會議室に開催し、銑鐵および特殊鋼を除く一般鐵鋼につき相當廣範圍にわたつての販賣價格の調整改訂を行ひ公定價格を決定して商工大臣に答申した、今回の改正により左の如き諸點が改善されることは注目すべきである。

1, 9・18停止令はその當時において價格が不均衡な状態におかれてゐたものもあり、これをかなり廣範圍に修正した

1, 從來一級品については比較的統制が圓滑に行はれてゐたが、二級品以下の短尺物、端尺物についてはメーカーが區々の價格で販賣してゐたものを整理し合理的價格を決定した

1, 各品種、各規格間の價格の不均衡により製品が偏在しがちであつたが、その凹凸を是正し製品の偏在を防止する

次に價格改正答申案の内容は大要下のごとくである

今回の決定價格は生産費から何ら割出されたものではなく現行の水準の範圍内で行はれたもので、従つて値上げされたものも價格り、値下げとなつたものもあり全體的の價格は引上げられたものではない、特殊鋼は昨年4月の改正のまゝ据置かれ

銑鐵に関してはその價格決定の重大性にかんがみ一應除外した、銑鐵價格については目下引上げ論が行はれてゐるが、政府の最高方針に委ねる。メーカー、一手買取會社、一般販賣業者を通じて實需家渡しを一本建價格とし、一手買取會社販賣業者は内口錢とする、内口錢は從來の口錢より幾分減少しメーカーの手取りを多くした、かくして價格を改訂せるものは

△9・18に比して引上げとなつたもの—線材(5%)薄板(7%)ブリキ板(6%)帶鋼(0.5%)高級仕上鋼板、珪素鋼板は僅少の値上り

△9・18に比し引下げとなつたもの—鋼管(0.1%)軌條(2.5%)またベースもの以外については從來加算額を認めてゐたが、今回はこれを排除して引下げることとした

△9・18据置のもの—棒鋼、形鋼、厚板など

さらに右の價格改訂により線材、薄板、ブリキ、帶鋼などを原料とする亜鉛鐵線或は釘、針金、亜鉛鐵板、シャベル、石油罐、磨帶鋼などの第二次メーカーも影響を受けることとなるが同部會では特に附帶決議として「鐵鋼販賣業者の口錢引下げによつて得たメーカーの手取分の増加額の一部を價格調整資金として積立て第二次製品メーカーに對し現行價格を維持する程度に割引販賣を行ふ」べき旨答申した (大毎5月7日・抄)